

## 2006年10月の地震活動の評価

### 1. 主な地震活動

目立った活動はなかった。

### 2. 各地方別の地震活動

#### (1) 北海道地方

目立った活動はなかった。

#### (2) 東北地方

- 10月2日に三陸沖〔宮城県沖〕でマグニチュード(M)5.2の地震が発生した。
- 10月11日に福島県沖でM6.0の地震が発生した。発震機構は西北西―東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートの沈み込みに伴う地震である。

#### (3) 関東・中部地方

- 10月14日に千葉県南東沖の深さ約65kmでM5.1の地震が発生した。
- 10月24日に鳥島近海の浅いところでM6.8の地震が発生し、伊豆諸島などで微弱な津波を観測した。発震機構は東北東―西南西方向に張力軸を持つ正断層型であった。
- 東海地方のGPS観測結果等には特段の変化は見られない。

#### (4) 近畿・中国・四国地方

目立った活動はなかった。

#### (5) 九州・沖縄地方

- 10月12日に与那国島近海でM6.2の地震が発生した。

### 補足

- 11月1日に十勝支庁南部の深さ約50kmでM4.8の地震が発生した。発震機構は北西―南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。また、同じ日にほぼ同じ場所でM4.3の地震が発生した。

注：〔 〕内は気象庁が情報発表に用いた震央地域名である。

# ○ 2006年10月の地震活動の評価についての補足説明

平成18年11月8日

地震調査委員会

## 1 主な地震活動について

2006年10月の日本およびその周辺域におけるマグニチュード(M)別の地震の発生状況は以下のとおり。

M4.0以上およびM5.0以上の地震の発生は、それぞれ101回(9月は73回)および26回(9月は11回)であった。また、M6.0以上の地震の発生は7回で、2006年は10月までに16回発生している。

(参考) M4.0以上の月回数73回(1996-2005年の10年間の中央値)、  
M5.0以上の月回数9回(1976-2005年の30年間の中央値)、  
M6.0以上の月回数1.4回、年回数約17回(1926-2005年の80年間の平均値)

2005年10月以降2006年9月末までの間、主な地震活動として評価文に取り上げたものは次のものがあつた。

- ー 茨城県沖 2005年10月19日 M6.3(深さ約50km)
- ー 三陸沖 2005年11月15日 M7.2
- ー 日向灘 2006年3月27日 M5.5(深さ約35km)
- ー 伊豆半島東方沖 2006年4月21日 M5.8、4月30日 M4.5などの地震活動
- ー 大分県中部 2006年6月12日 M6.2(深さ約150km)

## 2 各地方別の地震活動

### (1) 北海道地方

北海道地方では特に補足する事項はない。

### (2) 東北地方

東北地方では特に補足する事項はない。

### (3) 関東・中部地方

「東海地方のGPS観測結果等には特段の変化は見られない。」:

(なお、これは、10月30日に開催された地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会における見解(参考参照)と同様である。)

(参考)最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動(平成18年10月30日気象庁地震火山部)

「現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。  
全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖東方から静岡県中部の直下では通常より活動レベルの低い状態になっていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。  
東海地域及びその周辺の地殻変動には注目すべき特別な変化は観測されていません。」

### (4) 近畿・中国・四国地方

近畿・中国・四国地方では特に補足する事項はない。

### (5) 九州・沖縄地方

ー9月18日頃から宮古島南東沖〔宮古島近海〕で始まった地震活動は、10月に入って低調であったが、下旬に一時的に活発化した。

ー10月26日に宮古島北東沖〔宮古島近海〕の深さ約50kmでM4.5の地震が発生した。

### (6) その他の地域

ー10月1日に千島列島東方でM6.8とM6.6の地震が発生し、10月13日にもM6.3の地震が発生した。

ー10月9日に台湾南方沖でM6.1の地震が発生した。

## 補足

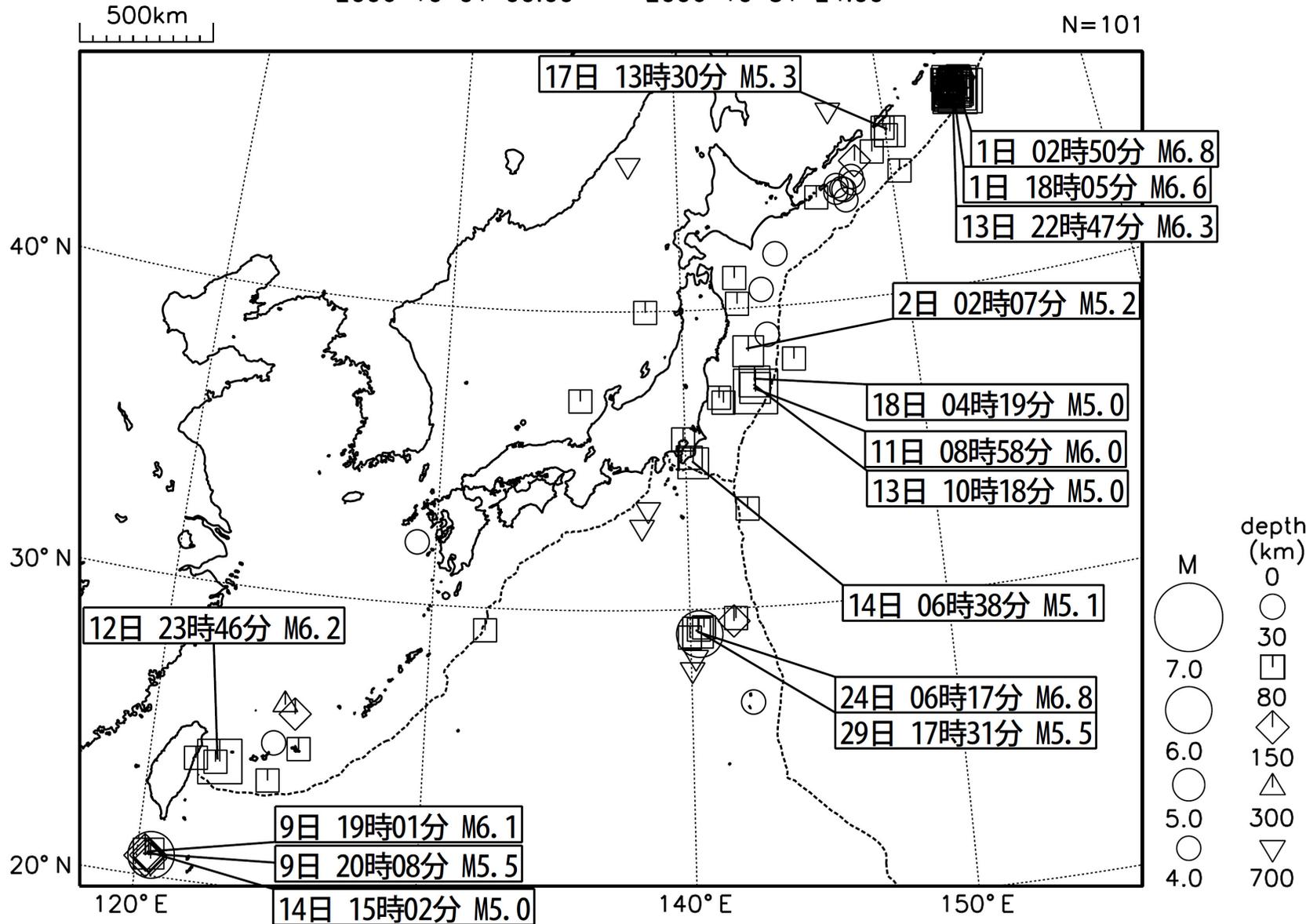
ー11月3日に大阪府北部の深さ約10kmでM3.7の地震(最大震度4)が発生した。余震活動はほぼ収まりつつある。

ー11月5日頃から沖縄本島北西沖でM4.8を最大とする小規模な地震活動があつた。

- 参考 1 「地震活動の評価」において掲載する地震活動の目安  
M6.0 以上のもの。または、M4.0 以上（海域では M5.0 以上）の地震で、かつ、最大震度が 3 以上のもの。
- 参考 2 「地震活動の評価についての補足説明」の記述の目安
- 1 「地震活動の評価」に記述された地震活動に係わる参考事項。
  - 2 「主な地震活動」として記述された地震活動（一年程度以内）に関連する活動。
  - 3 評価作業をしたものの、活動が顕著でなく、かつ、通常の活動の範囲内であることから、「地震活動の評価」に記述しなかった活動の状況。

# 2006年10月の全国の地震活動（マグニチュード4.0以上）

2006 10 01 00:00 -- 2006 10 31 24:00



福島県沖で10月11日にM6.0の地震があった。

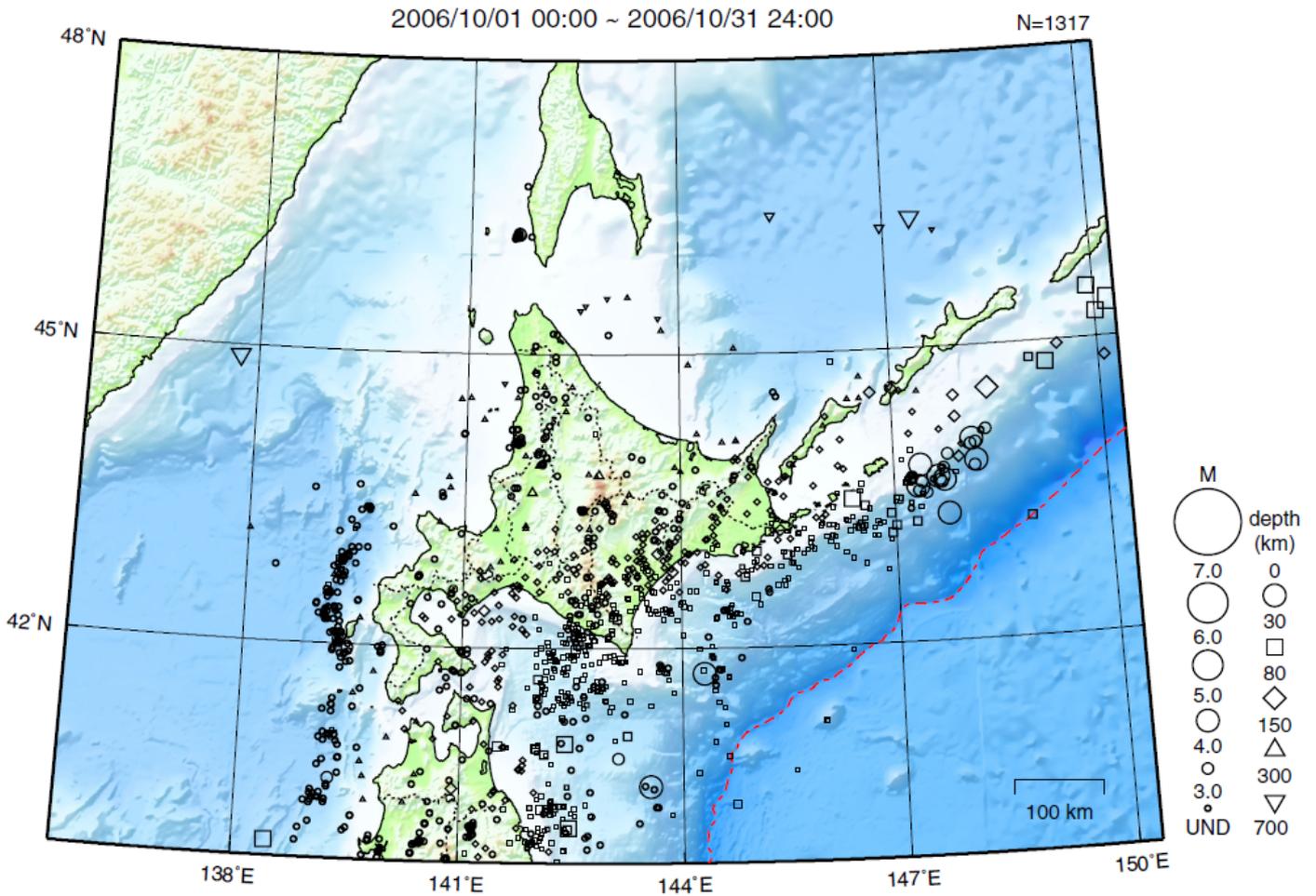
鳥島近海で10月24日にM6.8の地震があった。

与那国島近海で10月12日にM6.2の地震があった。

なお、観測網からやや離れているが、千島列島東方で10月1日にM6.8の地震があり、M5.0を超える余震が13回観測されている。

台湾南方沖で10月9日にM6.1の地震があった。

# 北海道地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2 を使用

特に目立った活動はなかった。

(上記期間外)

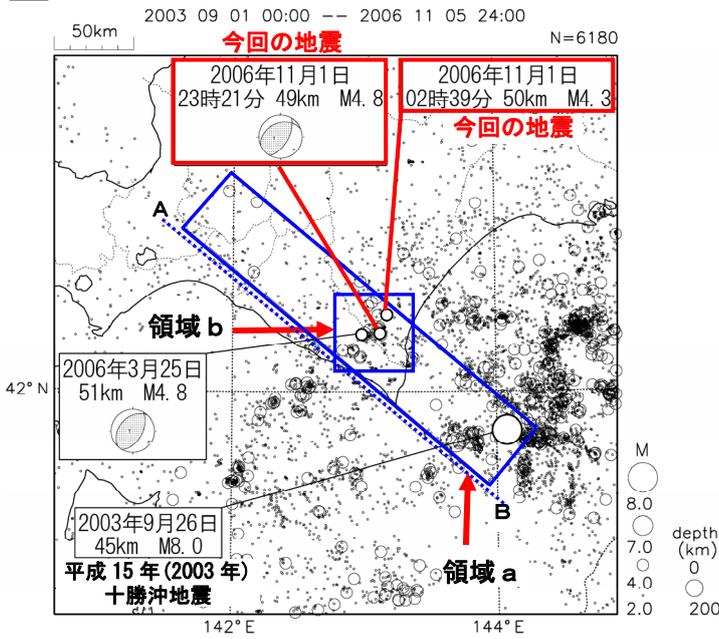
11月1日に十勝支庁南部で M4.3 (最大震度3) の地震があった。

11月1日に十勝支庁南部で M4.8 (最大震度4) の地震があった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

# 11月1日 十勝支庁南部の地震

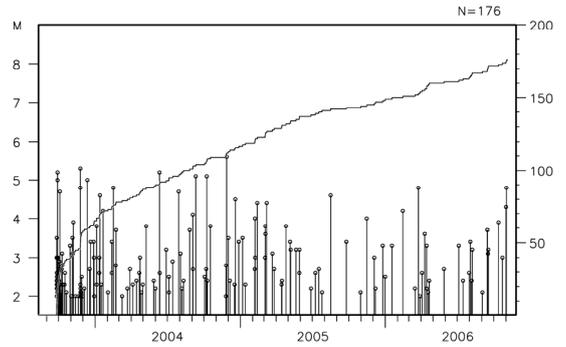
**A** 震央分布図 (2003年9月以降、 $M \geq 2.0$ )



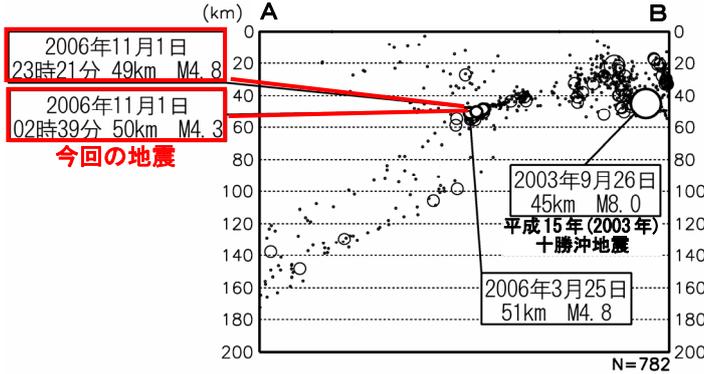
2006年11月1日23時21分に十勝支庁南部の深さ49kmでM4.8(最大震度4)の地震が発生した。発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。余震は観測されていない。なお、今回の地震の近くでは、同日02時39分にM4.3(深さ50km、最大震度3)の地震も発生している。

今回の地震の震源付近(領域b)はクラスタ状の活動が見られるところで、最近では2006年3月25日にM4.8(最大震度3)の地震が発生している。(A)

領域b内の地震活動経過図、回数積算図 ( $M \geq 2.0$ 、深さ40~60km)

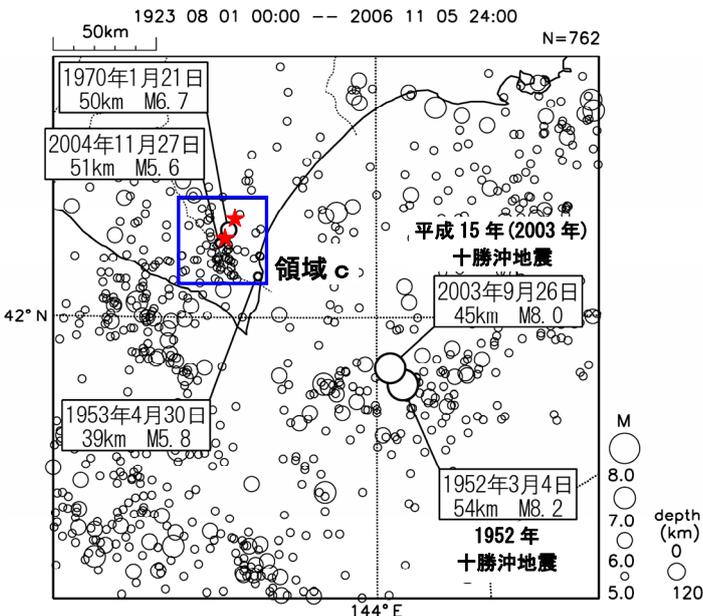


領域aの断面図 (A-B投影)



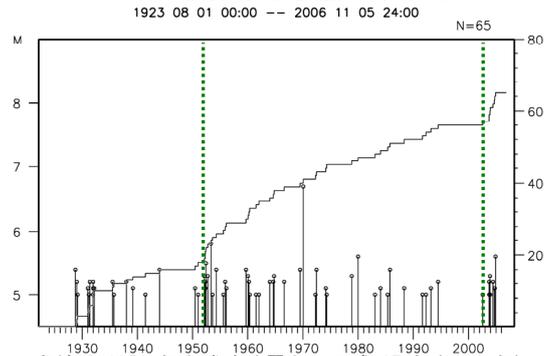
1923年8月以降のM5.0以上の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域c)では、M6.0以上の地震が1回発生している。また、2003年十勝沖地震前に地震発生数が少なく、発生後は増加しているように見える。1952年十勝沖地震前にも似たような傾向が見える。(B)

**B** 震央分布図 (1923年8月以降、 $M \geq 5.0$ )



★は今回の地震の震央位置を示す。

領域c内の地震活動経過図、回数積算図

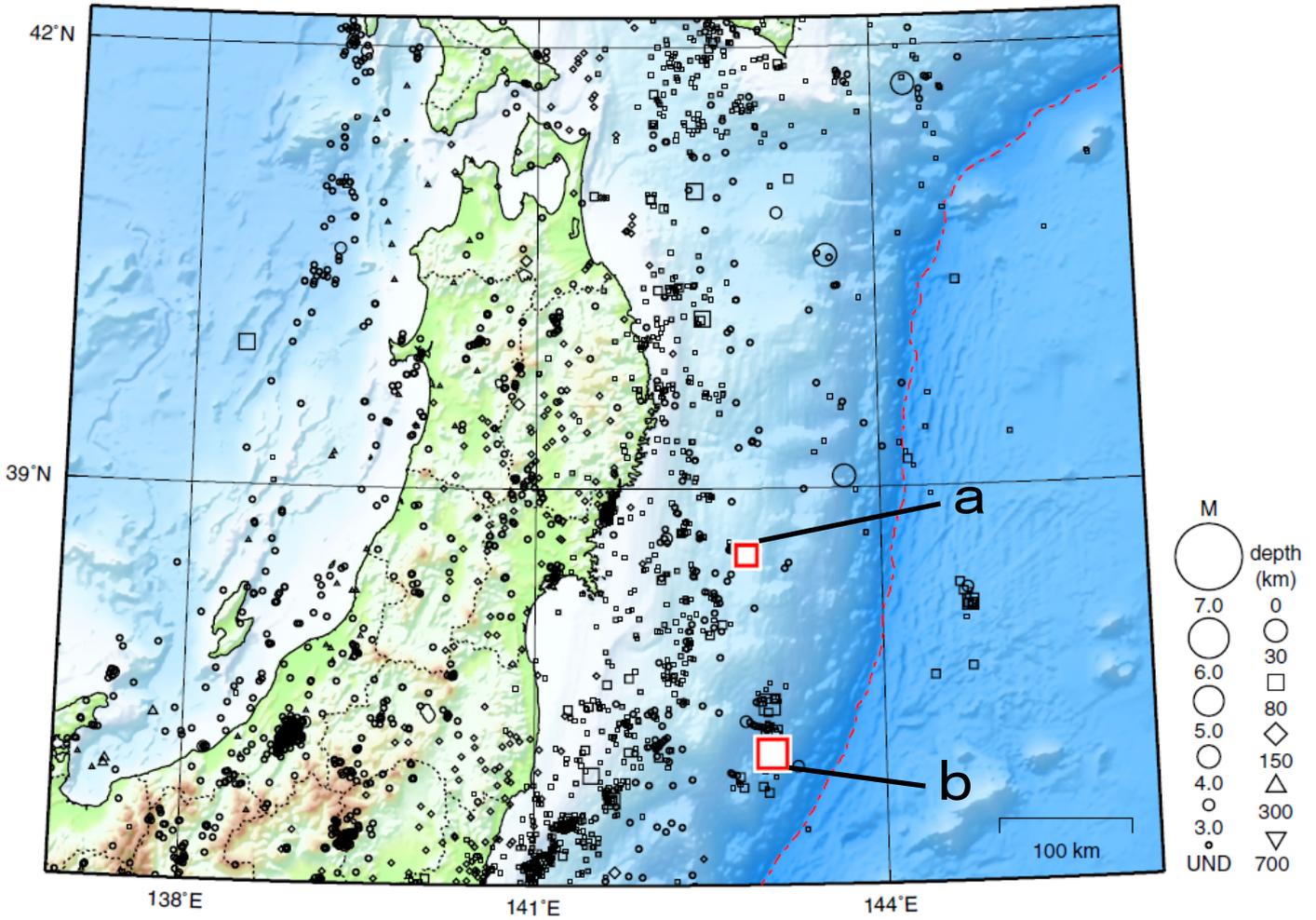


点線は1952年十勝沖地震と、平成15年(2003年)十勝沖地震の発生した時期を示す。

# 東北地方

2006/10/01 00:00 ~ 2006/10/31 24:00

N=2374



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02 を使用

- a) 10月2日に三陸沖〔宮城県沖〕でM5.2（最大震度3）の地震があった。
- b) 10月11日に福島県沖でM6.0（最大震度3）の地震があった。

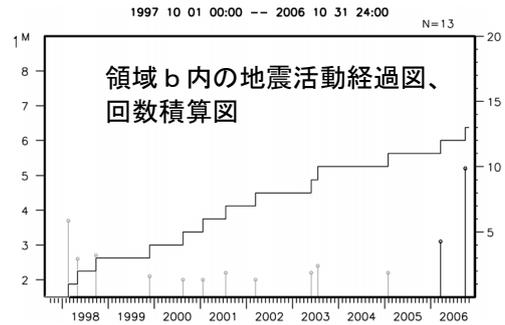
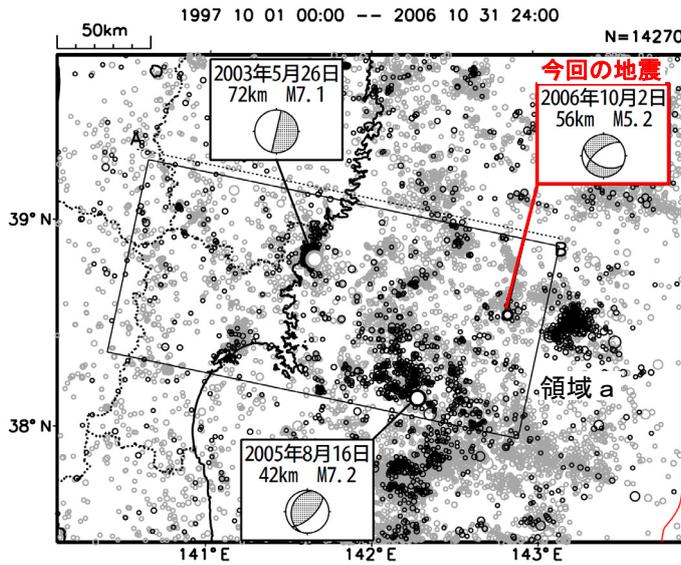
[ ]内は気象庁が情報発表に用いた震央地域名

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

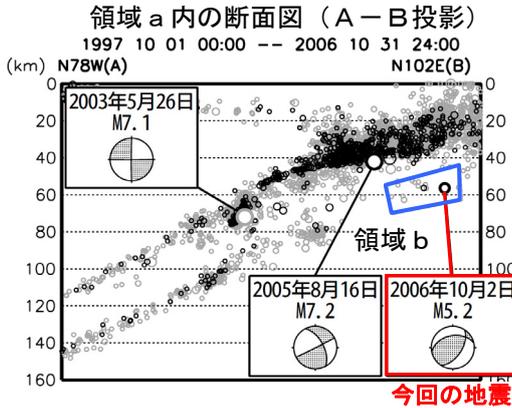
# 10月2日 三陸沖〔宮城県沖〕の地震

[ ]内は気象庁が情報発表に用いた震央地域名

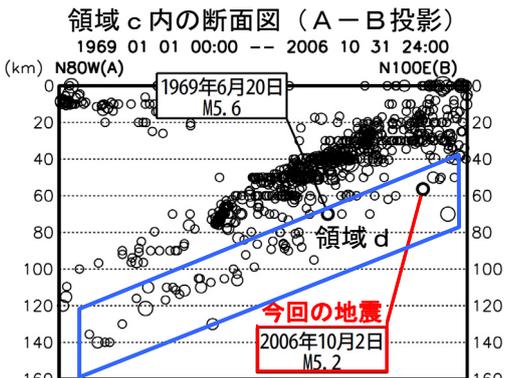
**A** 震央分布図 (1997年10月1日以降、 $M \geq 2.0$ )。2005年8月16日以降は濃く表示



2006年10月2日02時07分に三陸沖〔宮城県沖〕の深さ56kmでM5.2(最大震度3)の地震が発生した。発震機構(CMT解)は北北西-南南東方向に張力軸を持つ型で、太平洋プレート内部で発生した地震である。

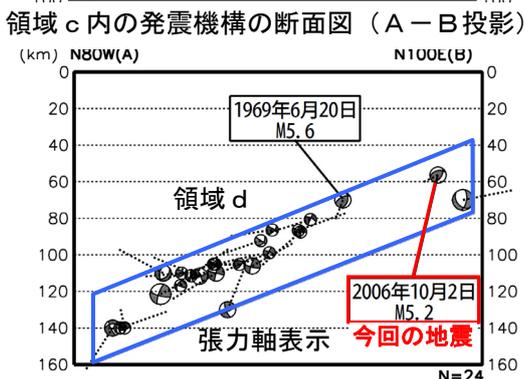
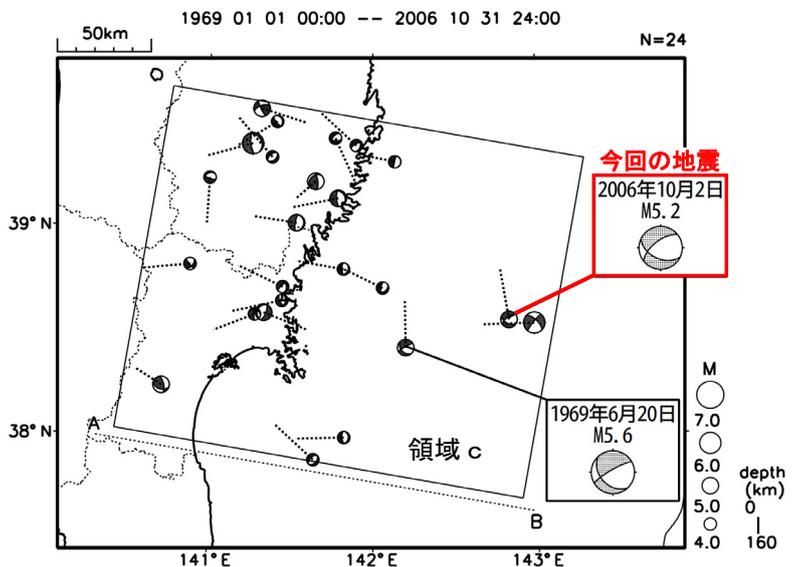


1997年10月以降の地震活動を見ると、今回の地震は周辺に比べて地震活動が低調なところで発生したものであり、プレート境界で発生した2005年8月16日の宮城県沖の地震や、プレート内部で発生した2003年5月26日の宮城県沖の地震とは発震機構が異なる。[A]



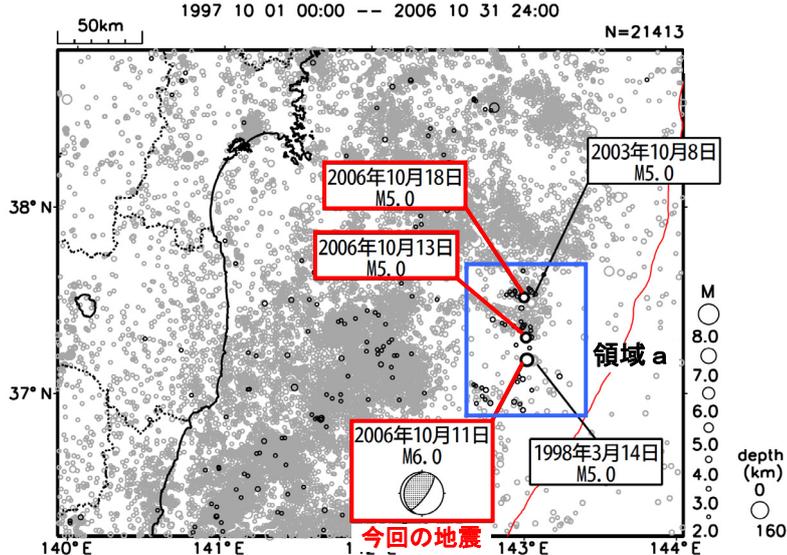
1969年以降について、二重地震面の下面付近および今回の地震が発生した領域(領域d)の地震についての発震機構を見ると、一般的に太平洋プレートの沈み込む方向に張力軸を持つ地震が多いが、1969年6月20日に発生したM5.6の地震は、今回の地震と比較的類似した発震機構となっている。[B]

**B** 発震機構分布図 (張力軸表示。1969年以降、領域c内の領域dの地震のみ表示。 $M \geq 4.0$ )



# 10月11日 福島県沖の地震

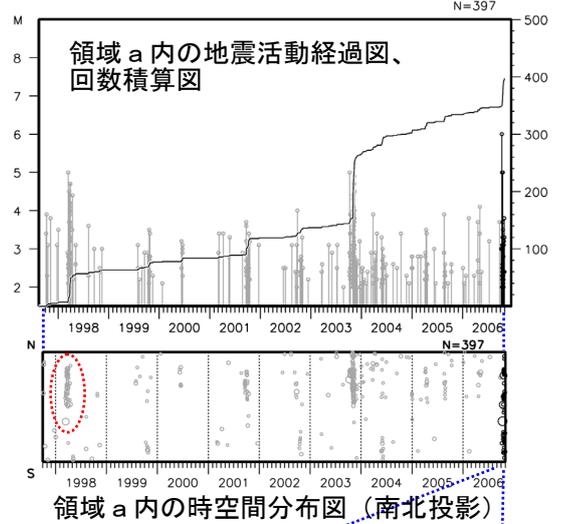
**A** 震央分布図 (1997年10月以降、 $M \geq 2.0$ )



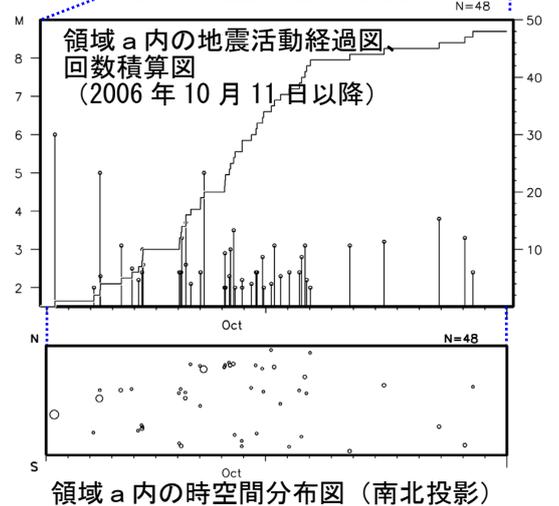
2006年10月11日08時58分に福島県沖でM6.0 (最大震度3)の地震が発生した。この地震の発震機構 (CMT解) は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートの沈み込みに伴い発生した地震である。今回の地震の震央の北側では10月13日と10月18日にM5.0の地震が発生するなど、今回の地震の後に、やや離れた場所で地震活動が見られたが10月末には収まった。

領域 a では今回と同様な地震活動が過去にも見られた (右上図 )。 (A)

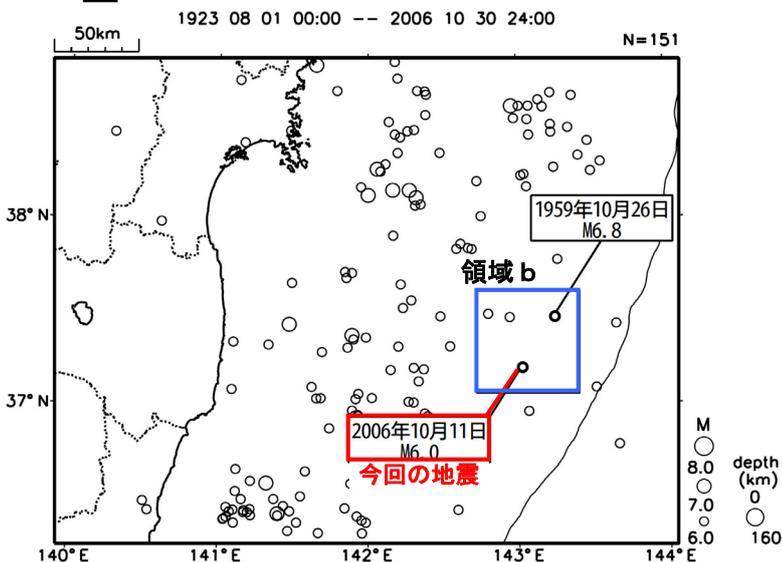
1997 10 01 00:00 -- 2006 10 31 24:00



2006 10 11 00:00 -- 2006 10 31 24:00

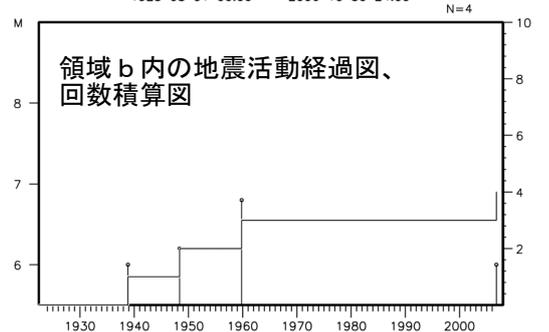


**B** 震央分布図 (1923年8月以降、 $M \geq 6.0$ )



1923年8月以降の地震活動を見ると、領域 b では1959年10月26日に発生したM6.8の地震が最大規模となっている。 (B)

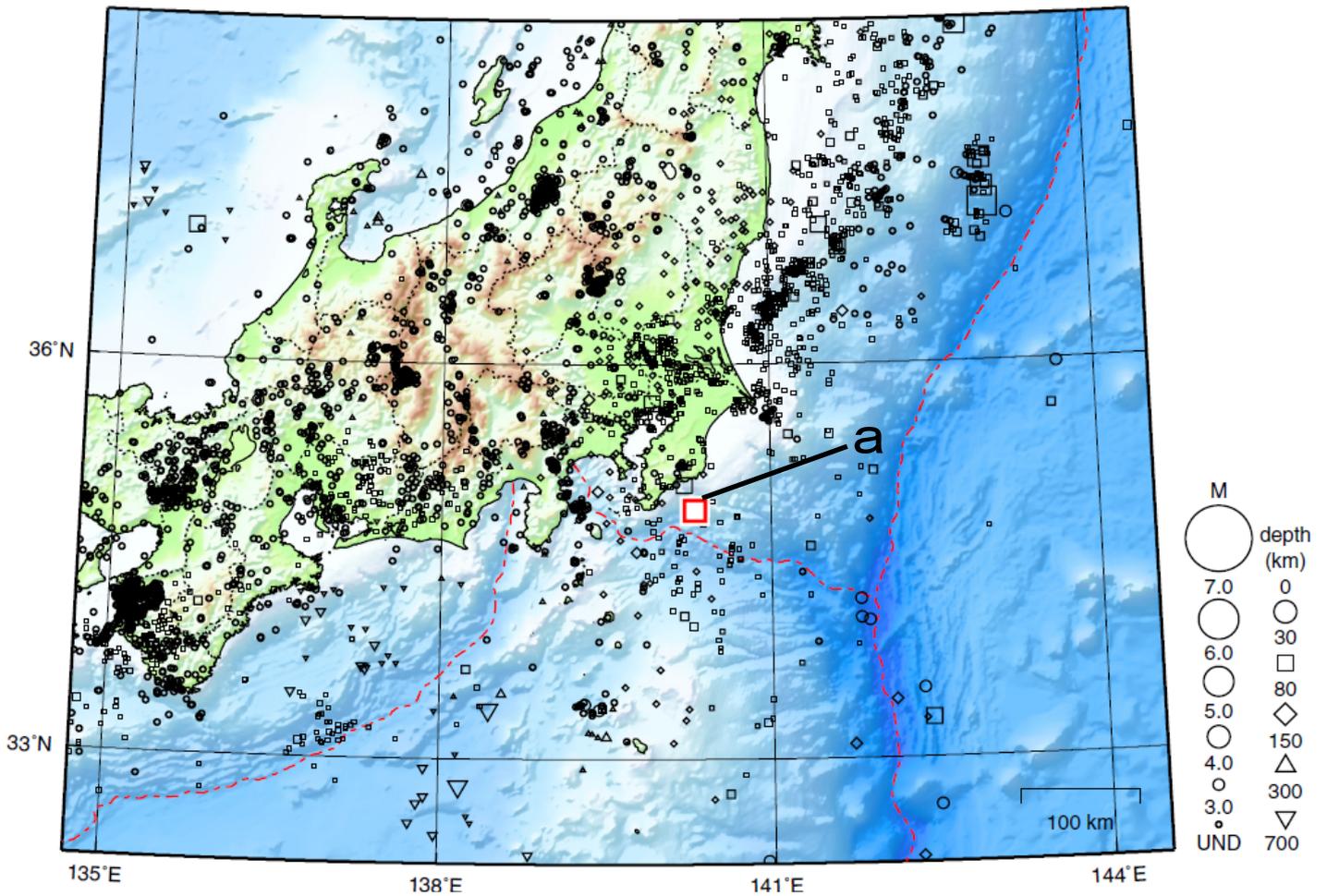
1923 08 01 00:00 -- 2006 10 30 24:00



# 関東・中部地方

2006/10/01 00:00 ~ 2006/10/31 24:00

N=4305



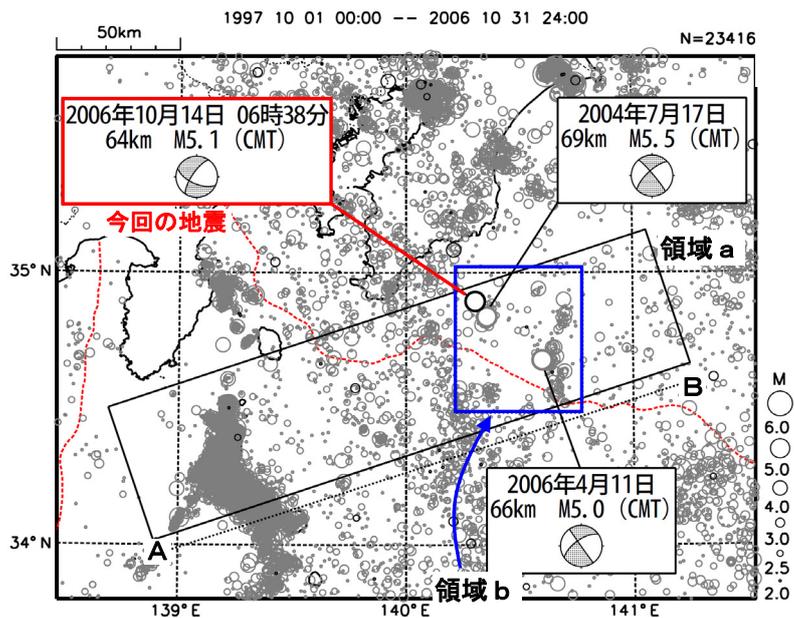
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2 を使用

- a) 10月14日に千葉県南東沖でM5.1（最大震度4）の地震があった。
- b) 10月24日に鳥島近海でM6.8（最大震度2）の地震があった。

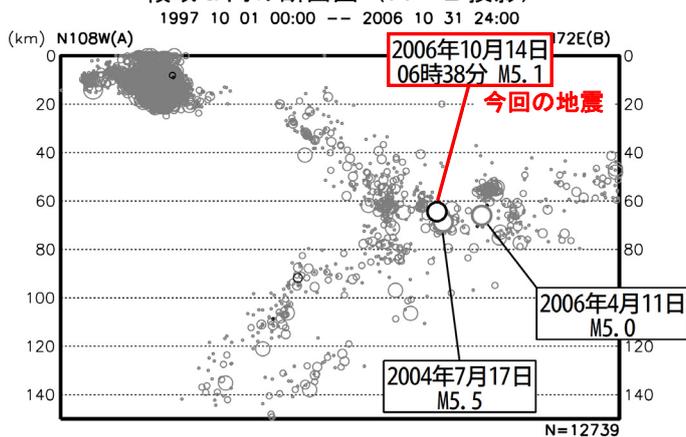
[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

# 10月14日 千葉県南東沖の地震

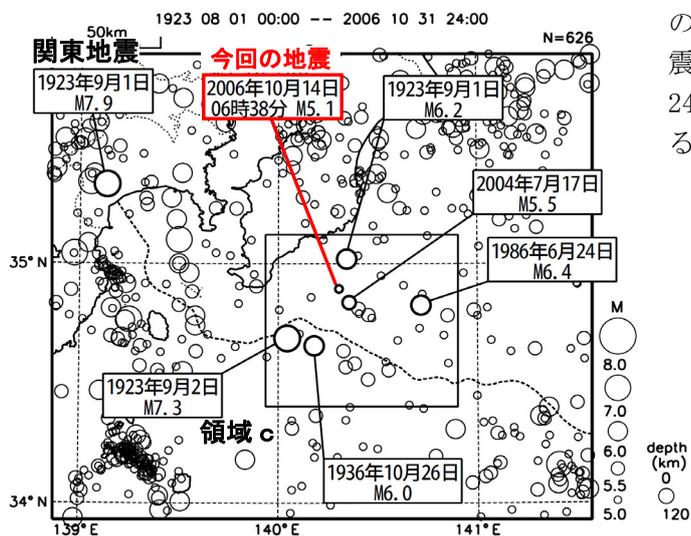
**A** 震央分布図 (1997年10月以降、 $M \geq 2.0$ )  
(2006年10月以降の地震を濃く表示)



領域 a 内の断面図 (A-B 投影)

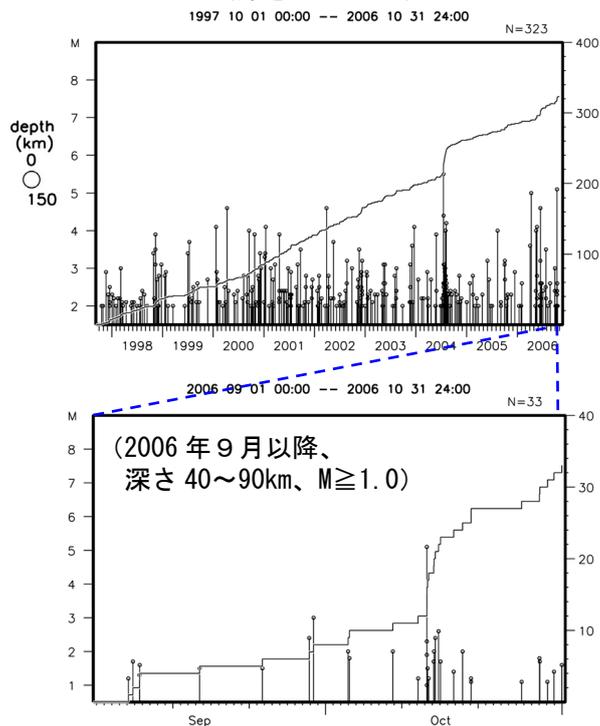


**B** 震央分布図 (1923年8月以降、 $M \geq 5.0$ )



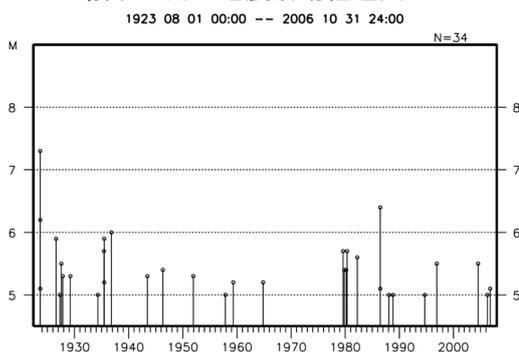
2006年10月14日06時38分に千葉県南東沖の深さ64kmでM5.1(最大震度4)の地震が発生した。発震機構(CMT解)は東北東-西南西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であった。今回の地震の震源付近では、2004年7月17日にM5.5(最大震度4)の地震が発生するなど、M5.0前後の地震が時々発生している。(A)

領域 b 内の地震活動経過図、回数積算図  
(深さ40~90km)



1923年8月以降、今回の地震の震央付近では、1923年9月1日のM7.9の地震[関東地震]直後の地震活動の活発な時期を除くと、M6.0以上の地震はあまり見られない。最近では、1986年6月24日にM6.4(最大震度4)の地震が発生しているのみである。(B)

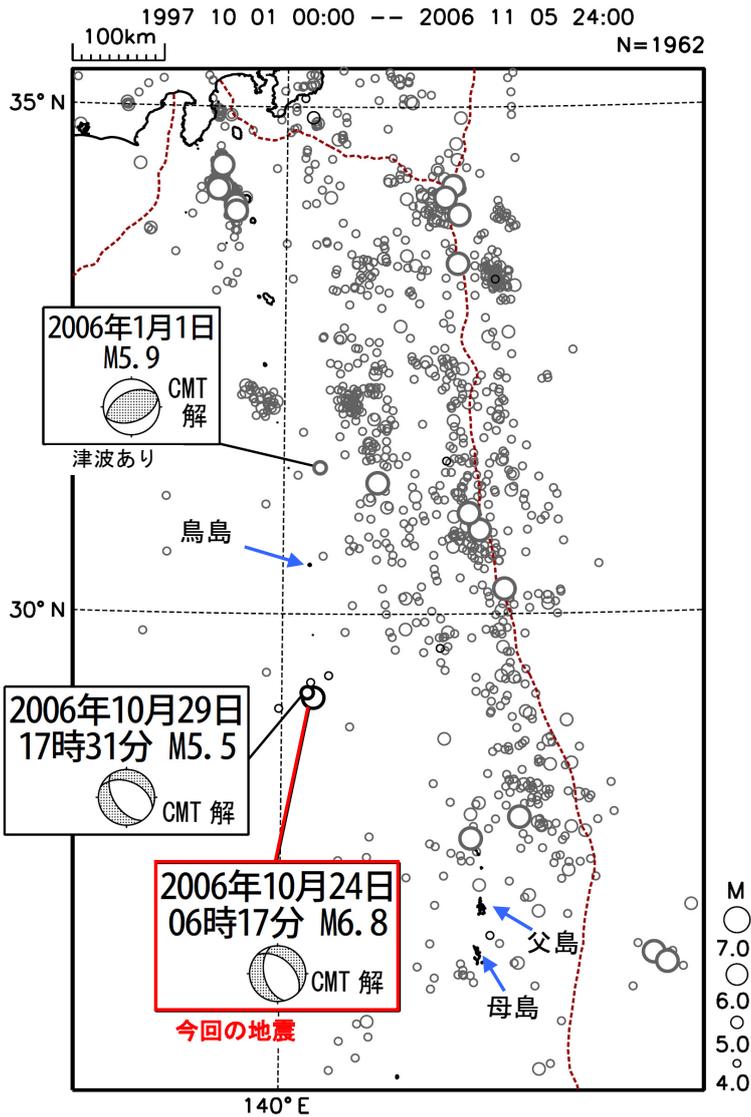
領域 c 内の地震活動経過図



# 10月24日 鳥島近海の地震

**A**

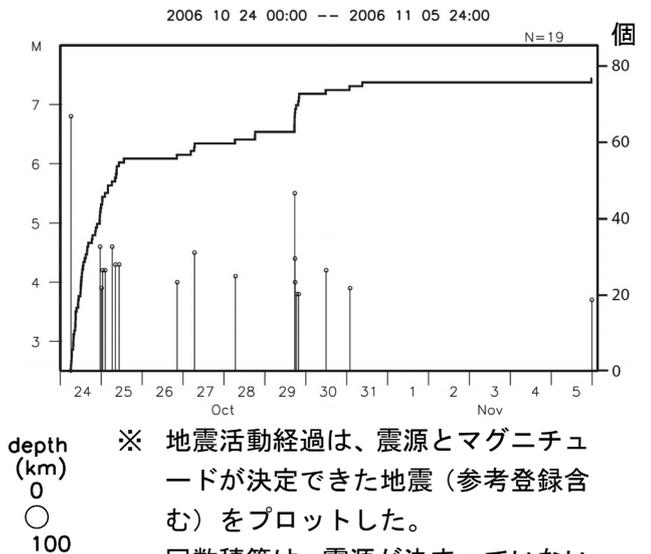
震央分布図 (1997年10月以降、M $\geq$ 4.0)



2006年10月24日06時17分に鳥島近海でM6.8(最大震度2)の浅い地震が発生した。発震機構は東北東-西南西方向に張力軸を持つ正断層型であった。

震源が決定できていない地震が多いが、父島観測点における地震波形のP相とS相の時間差がM6.8の地震のそれとほぼ同じものが多数観測されており、比較的活発な余震活動があったと推測される。(A)

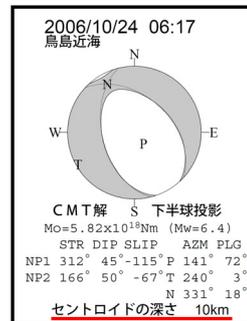
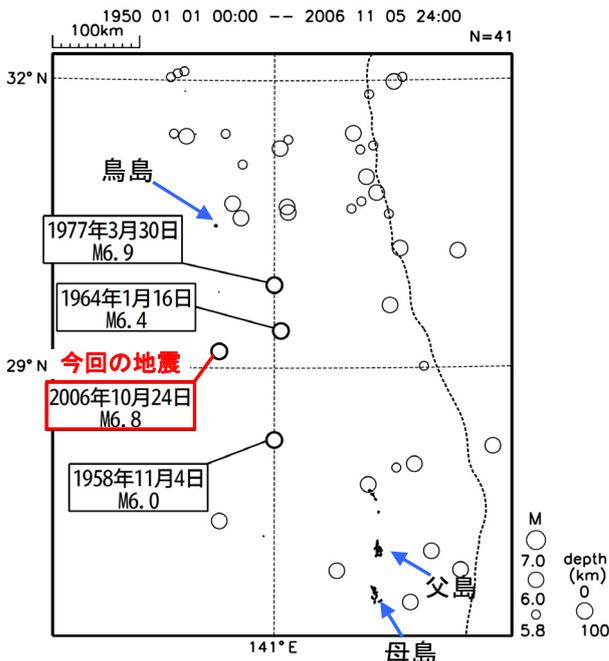
父島観測点の観測結果からみた地震活動の状況(※)



※ 地震活動経過は、震源とマグニチュードが決定できた地震(参考登録含む)をプロットした。回数積算は、震源が決まっていないものも含め、父島観測点でM6.8の地震と同程度のS-P時間を持つデータを余震としてカウントした。

**B**

震央分布図 (1950年以降、M $\geq$ 5.8)



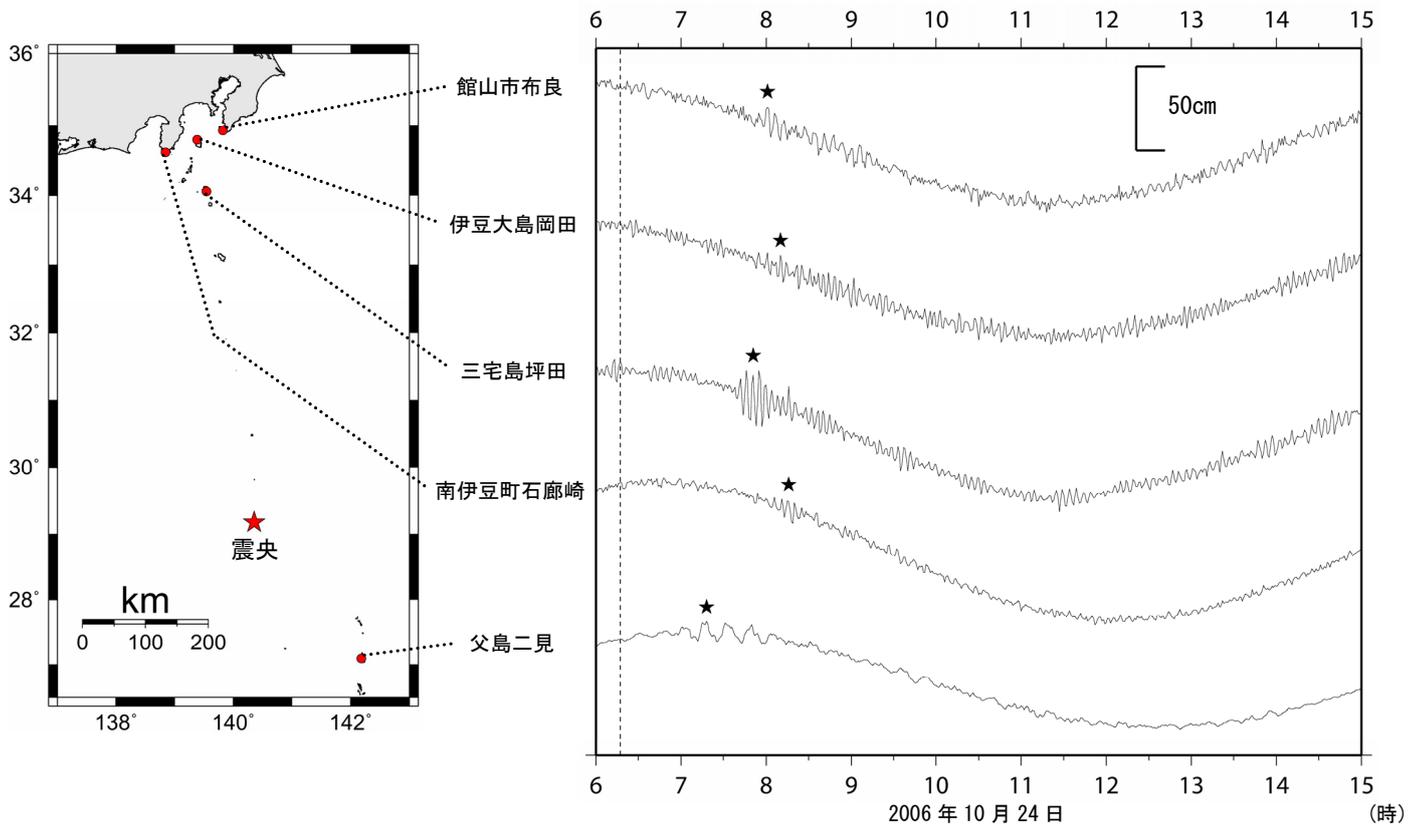
今回の地震の発震機構 (CMT解)

1950年以降の活動をみると、今回の地震の震央付近の海域では、過去にもM6.0以上の浅い(と考えられる)地震が3回発生している。(B)

## 10月24日 鳥島近海の地震（2）

2006年10月24日06時17分に鳥島近海で発生したM6.8の地震により、伊豆諸島などで微弱な津波を観測した。

今回の地震が発生した海域付近では、1926年以降、津波が発生した地震は知られていない。なお、今回の地震の北約250kmの場所で、2006年1月1日にM5.9の地震が発生し、伊豆諸島などで微弱な津波を観測している。



検潮所の位置（左図）と検潮所で観測した津波の波形（右図）

右図内の点線は本震の発生時刻、★印は最大の高さの発現時刻を示す。  
 なお、微弱な津波のため、津波の第一波の到達時間及び高さの値は決定できなかった。

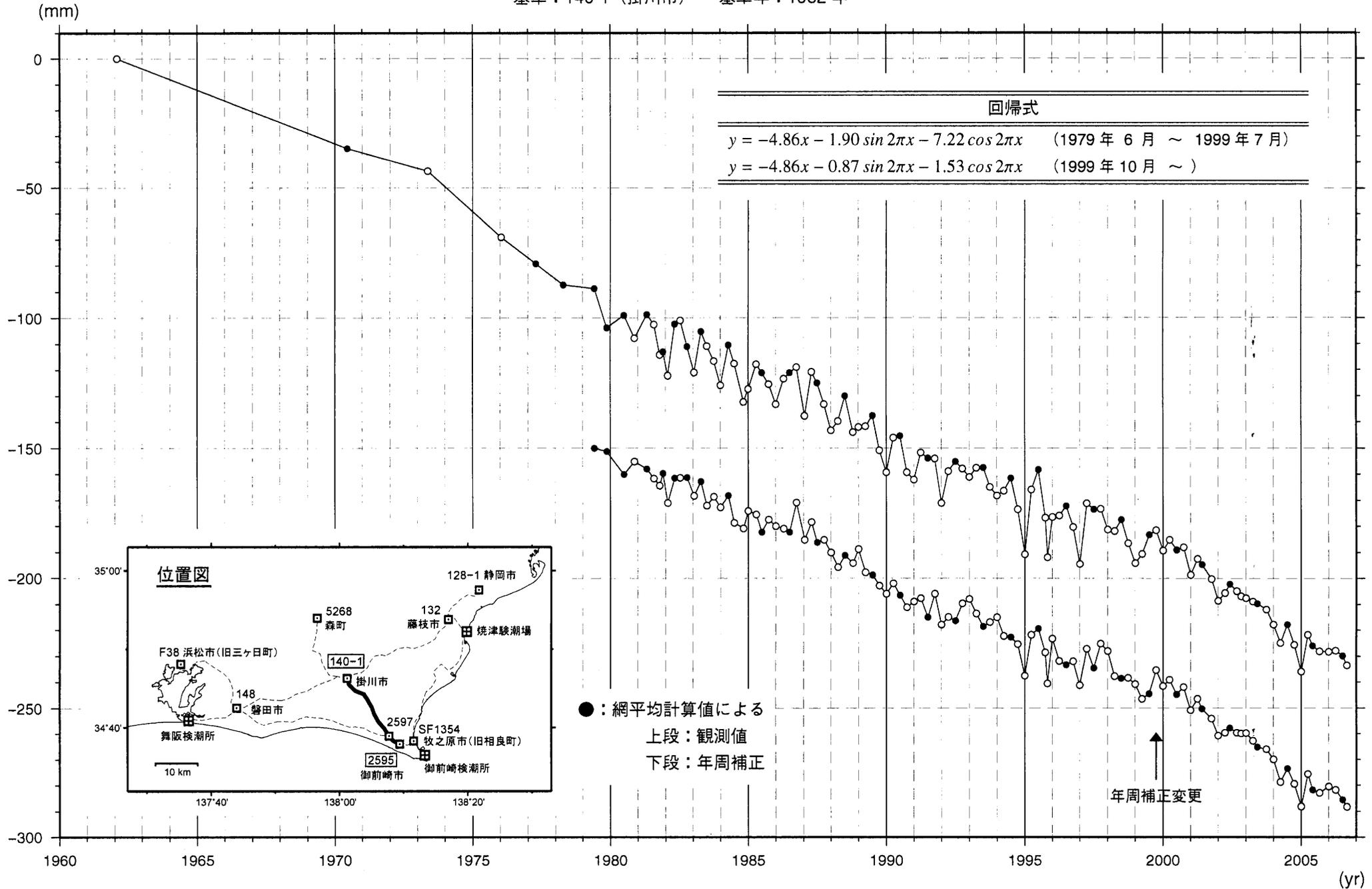
今回の地震に伴って観測した津波の観測値

都道府県名	観測点名称	最大の高さ	
		発現時刻	高さ (cm)
千葉県	館山市布良	8時01分	11
東京都	伊豆大島岡田	8時10分	8
東京都	三宅島坪田	7時51分	16
東京都	父島二見	7時18分	6
静岡県	南伊豆町石廊崎	8時16分	7

表中の値は速報値であり、後日変更される場合がある。

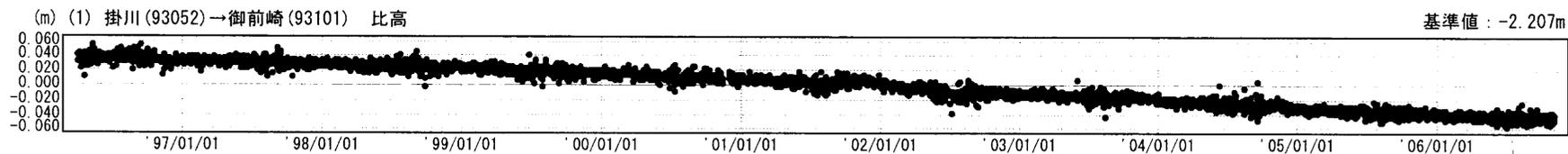
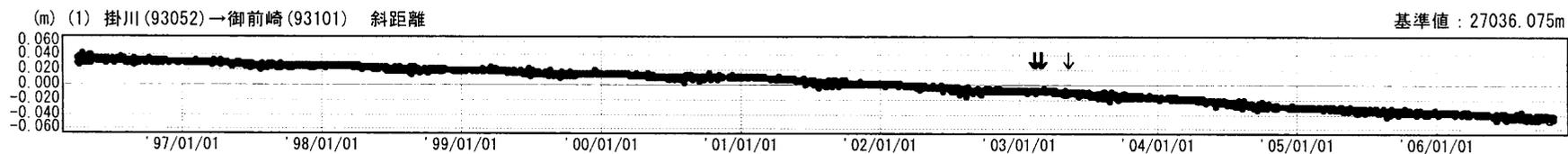
# 水準点2595（御前崎市）の経年変化

基準：140-1（掛川市） 基準年：1962年



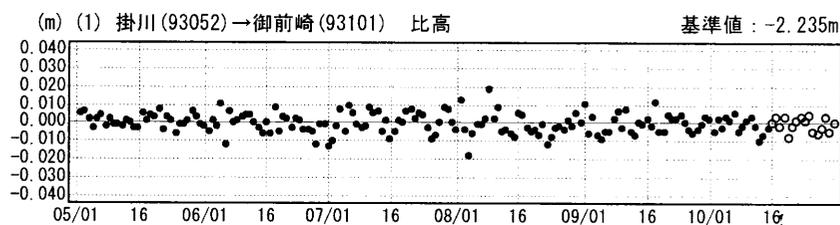
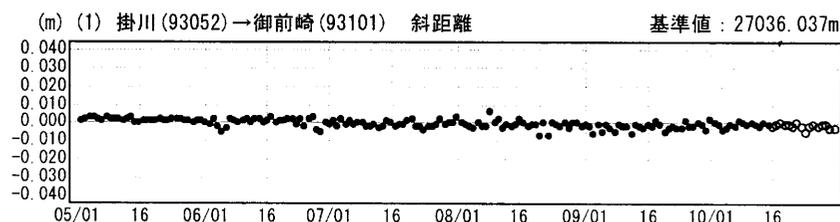
# 掛川—御前崎間のGPS連続観測結果(斜距離・比高)

期間：1996/04/01～2006/10/30 JST



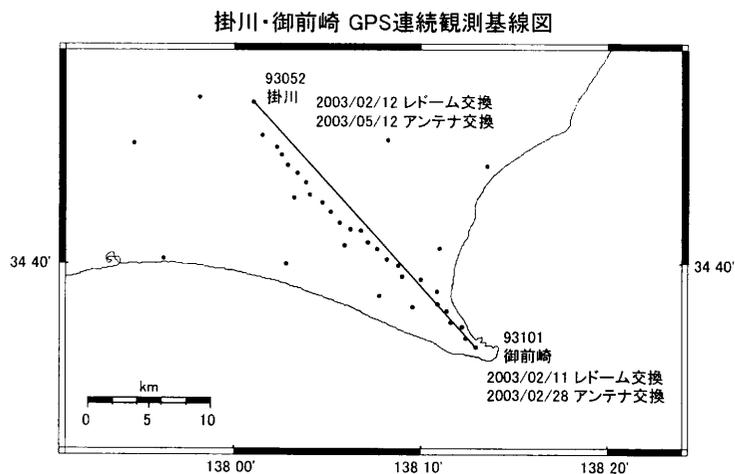
※グラフ中の矢印(↓)は、アンテナ交換等を示す。

期間：2006/05/01～2006/10/30 JST



●---[F2:最終解] ○---[R2:速報解]

掛川・御前崎周辺の基線には  
特段の変化は見られない。

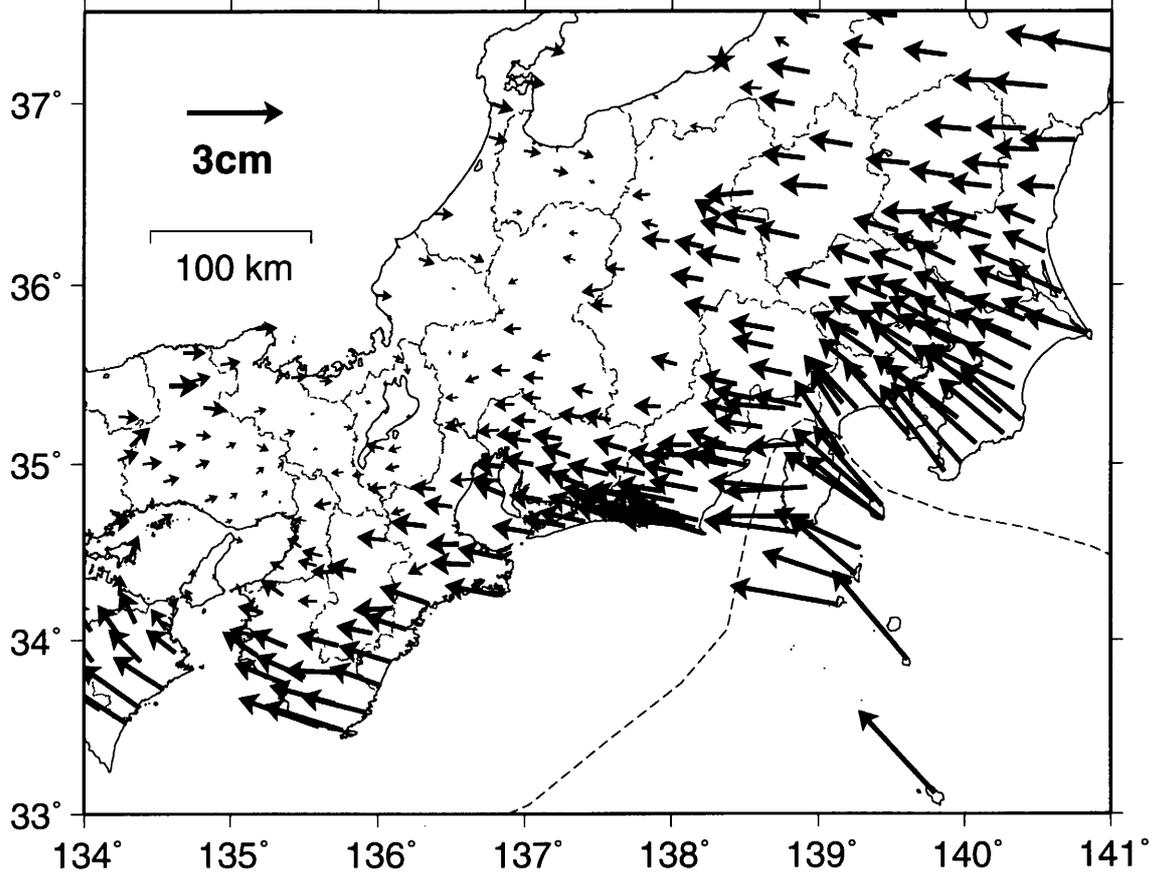


# 東海地方の最近の地殻変動

(2005年10月~2006年10月)

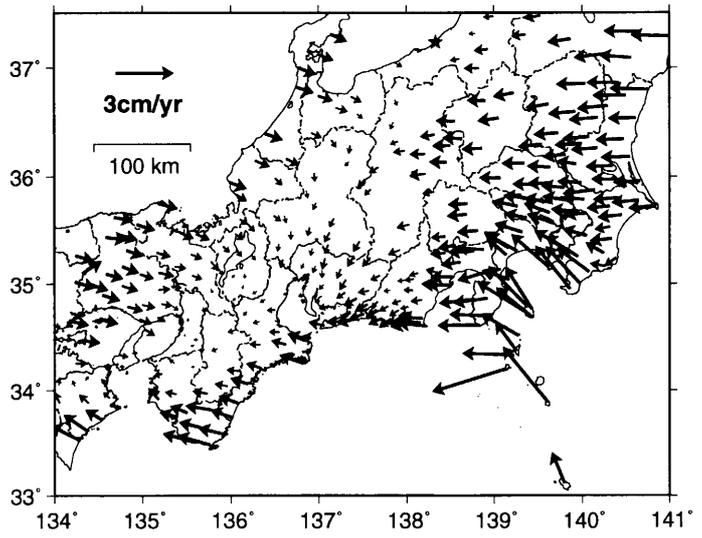
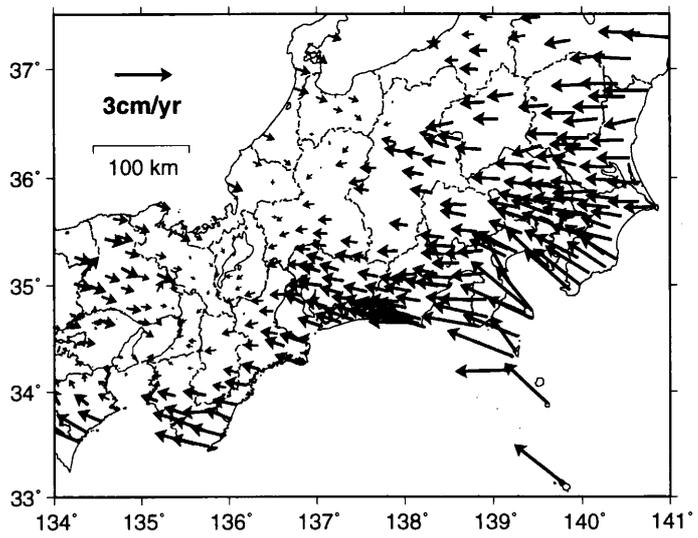
基準期間：2005/10/5 - 2005/10/14 [F2：最終解]  
 比較期間：2006/10/5 - 2006/10/14 [F2：最終解]

★固定局：大湊



スロースリップ開始以前の地殻変動速度  
 (1998年1月~2000年1月)

スロースリップ進行期の地殻変動速度  
 (2001年1月~2004年1月)

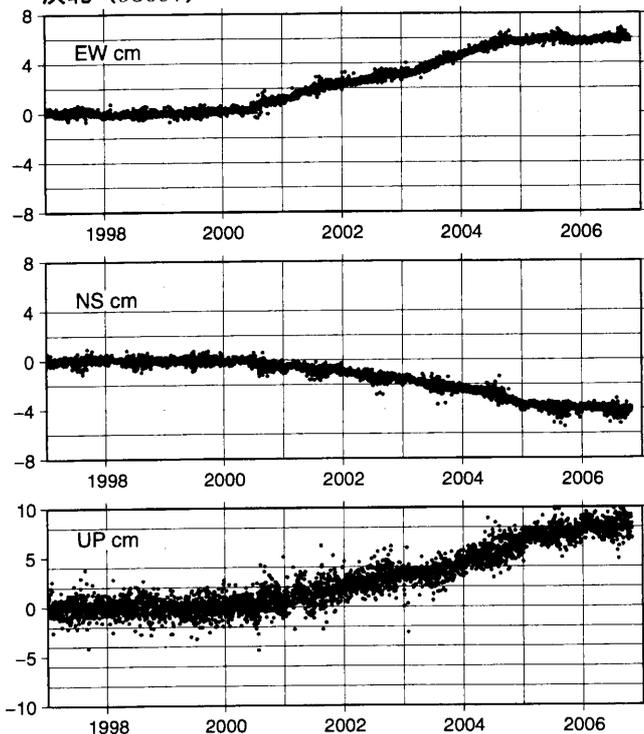


# 東海非定常地殻変動 大渦固定

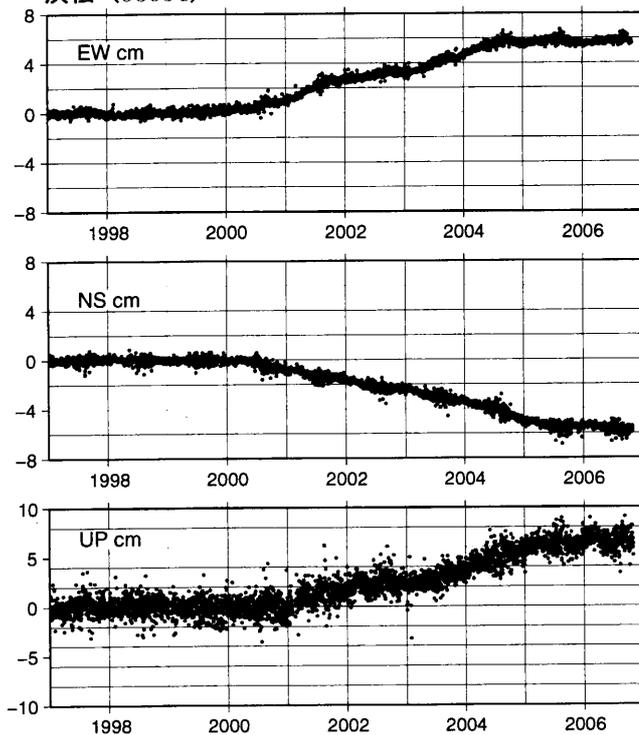
最終解 1997/1/1 - 2006/10/14  
速報解 2006/10/15 - 2006/10/28

- 1998年1月～2000年1月のデータから平均速度および年周変化を推定して平均的な地殻変動を求め、それを元の時系列データから除去している。
- 2003年以降の上下成分は年周補正を行っていない。
- 2004年9月5日に発生した紀伊半島南東沖の地震による地殻変動の影響は取り除いている。
- 2004年10月23日に発生した新潟県中越地震による地殻変動の影響は取り除いている。
- 2004年9月から2005年初頭までは、2004年9月5日に発生した紀伊半島南東沖の地震の余効変動の影響が含まれていると考えられる。

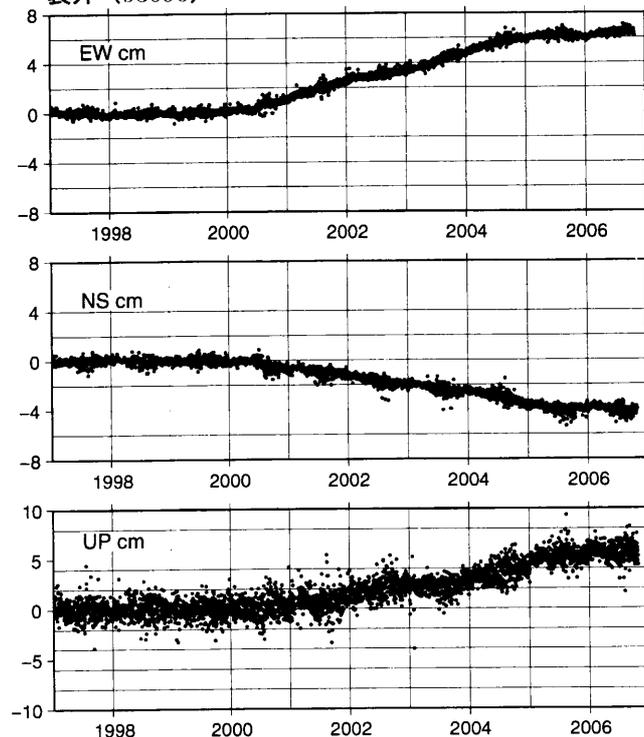
浜北 (93097)



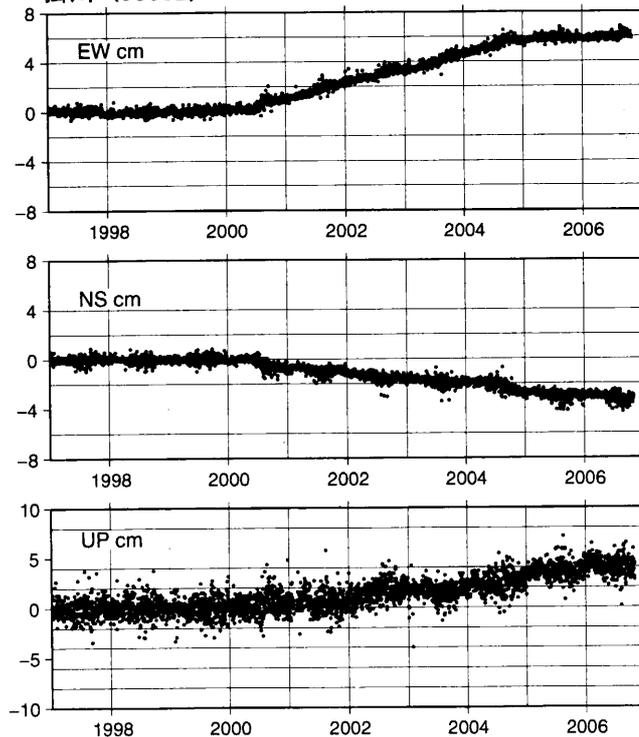
浜松 (93054)



袋井 (93096)



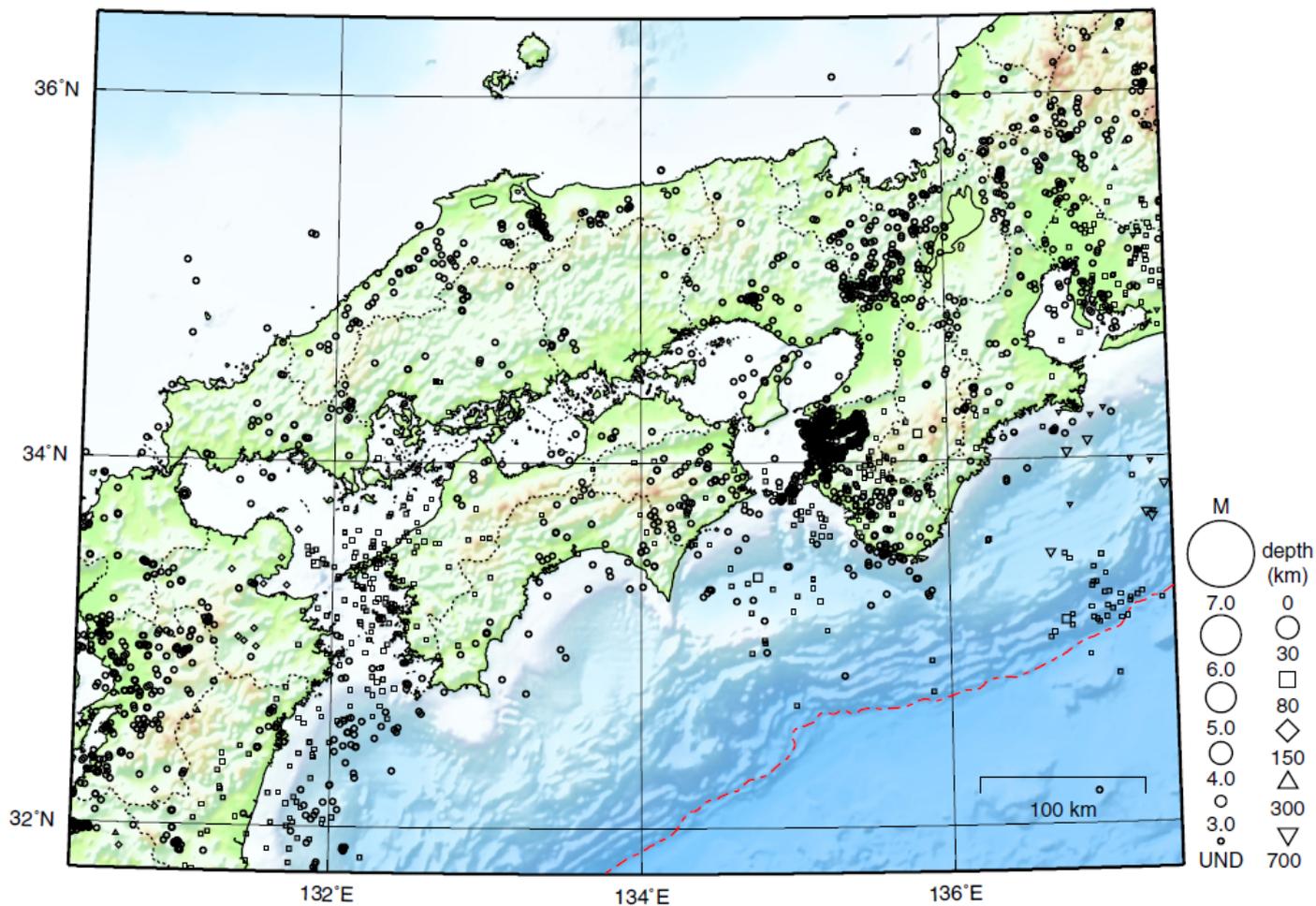
掛川 (93052)



# 近畿・中国・四国地方

2006/10/01 00:00 ~ 2006/10/31 24:00

N=2796



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02 を使用

特に目立った活動はなかった。

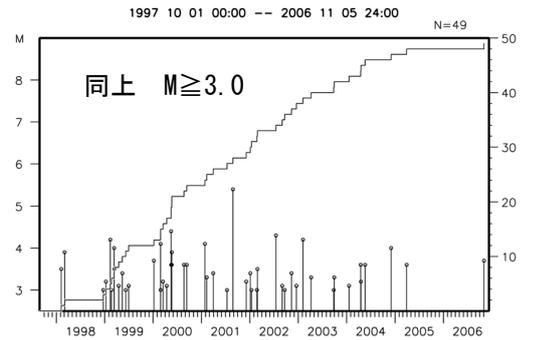
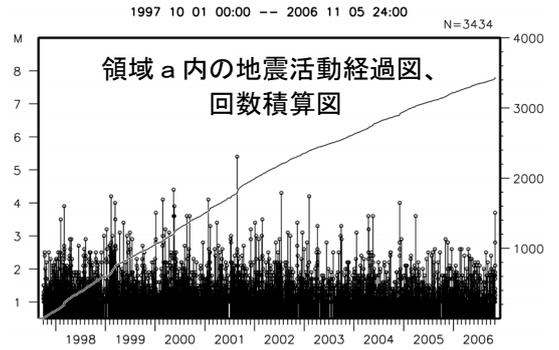
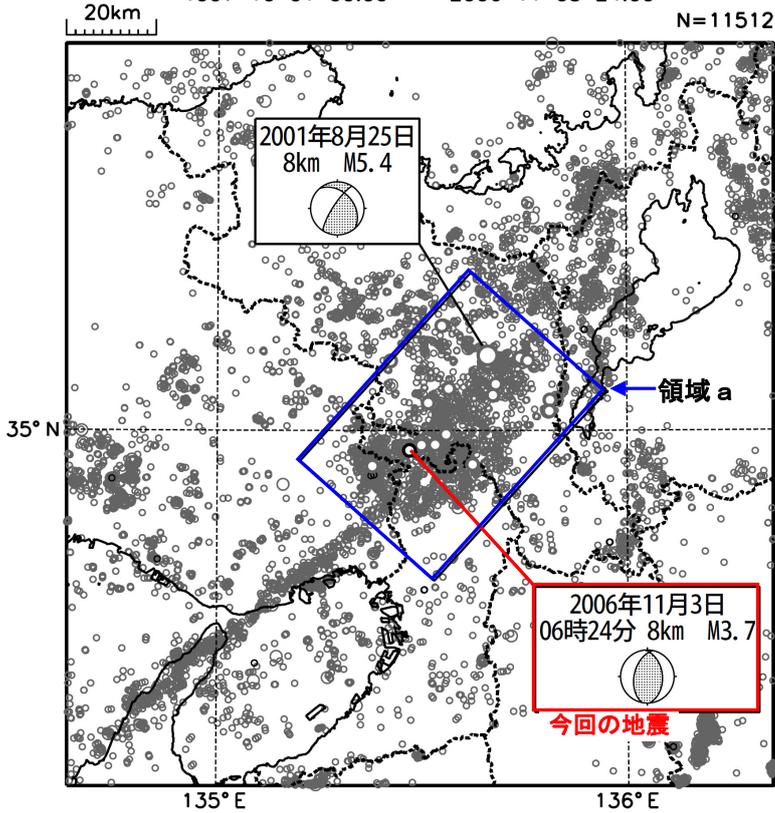
[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

# 11月3日 大阪府北部の地震

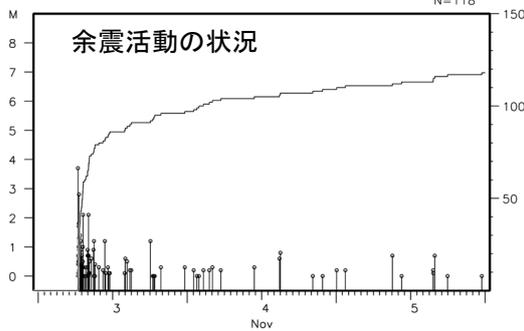
**A**

震央分布図 (1997年10月以降、 $M \geq 1.0$ )

1997 10 01 00:00 -- 2006 11 05 24:00



2006 11 03 00:00 -- 2006 11 05 24:00

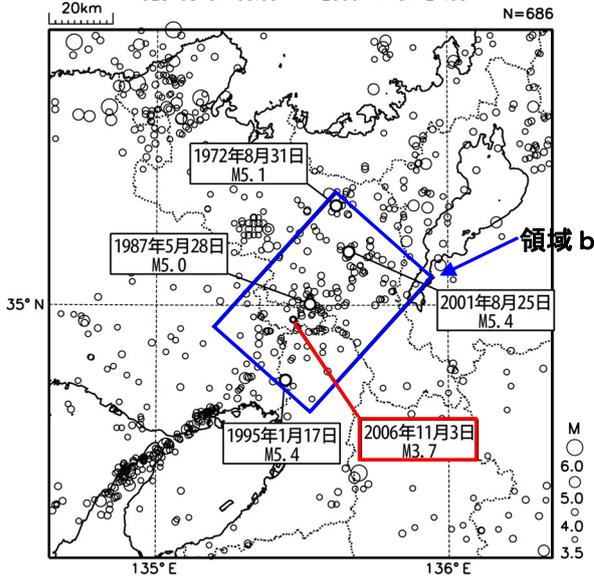


2006年11月3日06時24分に大阪府北部の深さ8kmで $M3.7$ （最大震度4）の地震が発生した。余震活動は収まりつつある。今回の地震の震央付近は、活発な地震活動域であるが、2002年頃から微小な地震も含めた地震回数が少ない状態で推移している。 $M3.0$ 以上についてもここ数年少ない状況が続いている。**(A)**

**B**

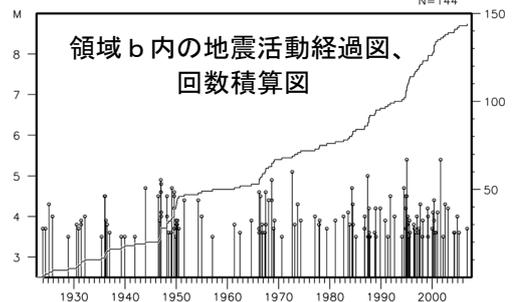
震央分布図 (1923年8月以降、 $M \geq 3.5$ )

1923 08 01 00:00 -- 2006 11 04 24:00



1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近では、 $M6.0$ 以上の地震は発生していない。また、長期間で見ると、 $M4$ 前後の地震が最近少ないというよりは、1995年1月17日の兵庫県南部地震 ( $M7.3$ ) 以前のレベルに戻りつつあるようにも見える。**(B)**

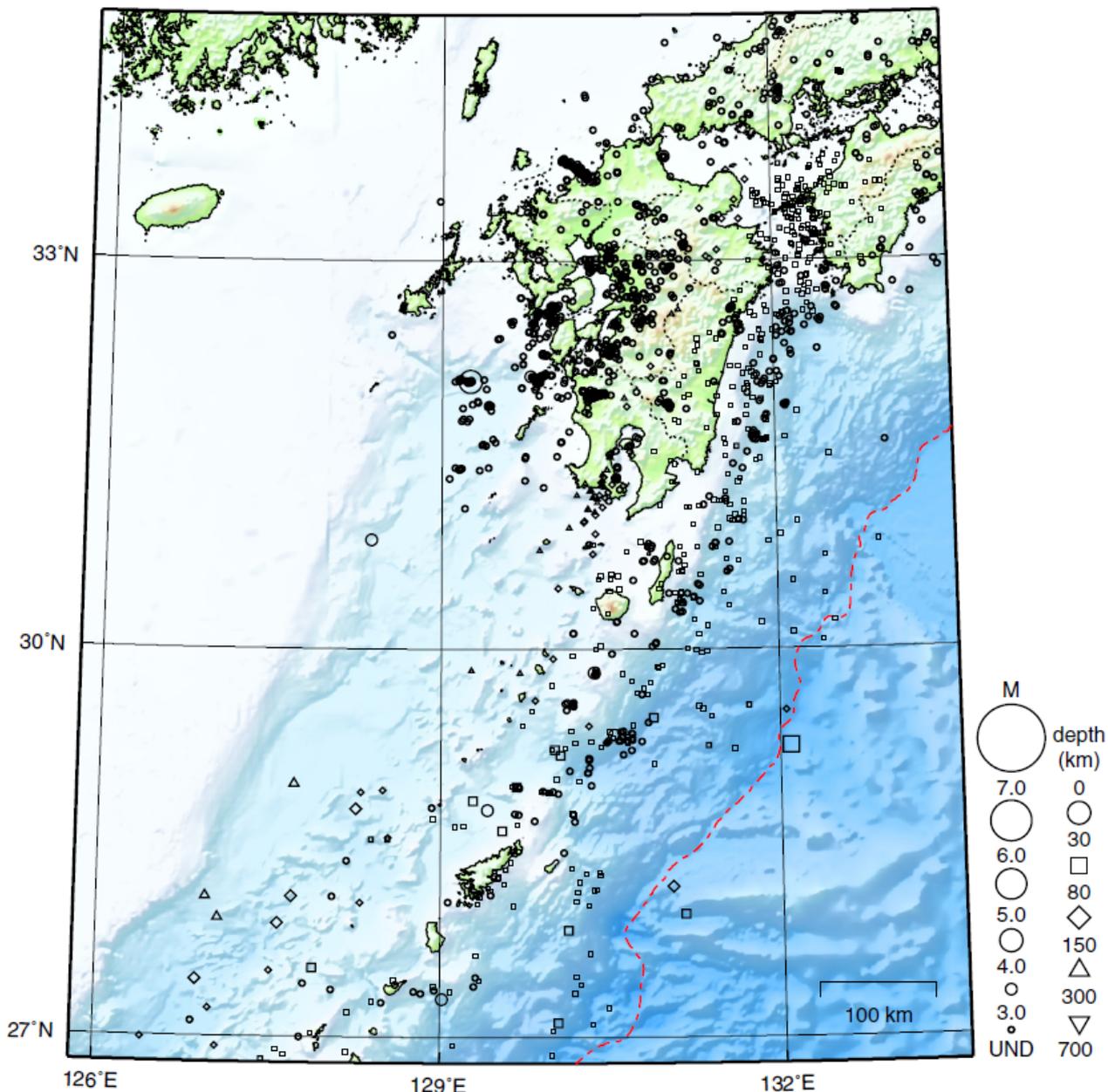
1923 08 01 00:00 -- 2006 11 04 24:00



# 九州地方

2006/10/01 00:00 ~ 2006/10/31 24:00

N=1896



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02 を使用

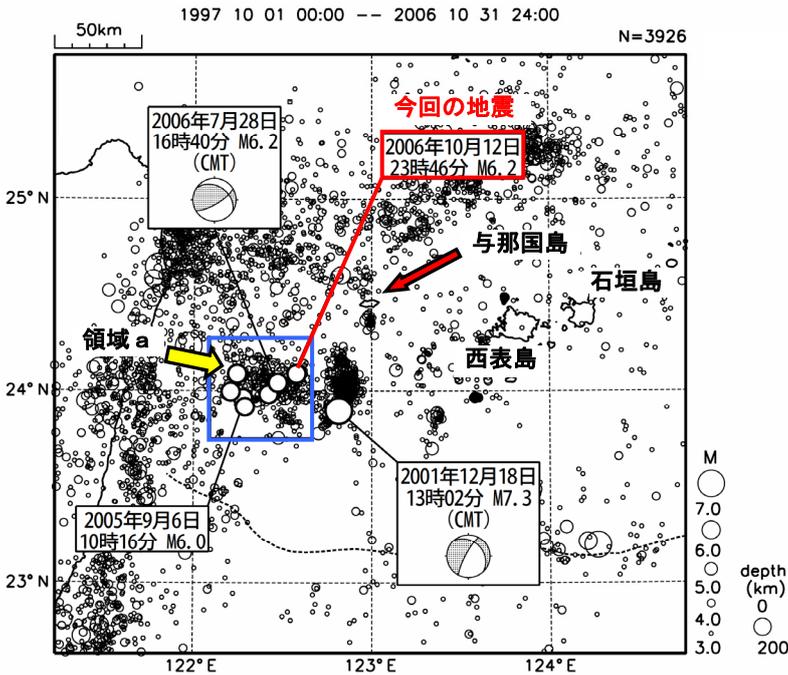
特に目立った活動はなかった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]



# 10月12日 与那国島近海の地震活動

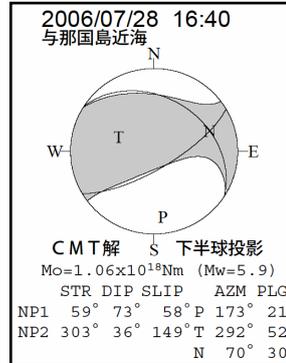
**A** 震央分布図 (1997年10月以降、 $M \geq 3.0$ )



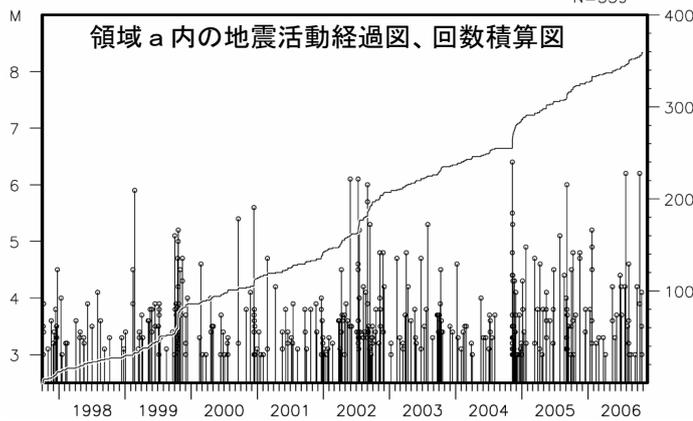
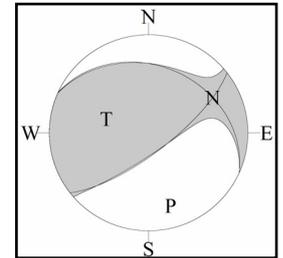
領域 a 内の M6.0 以上を濃くプロットしている。

1997 10 01 00:00 -- 2006 10 31 24:00

2006年7月28日の地震の CMT 解

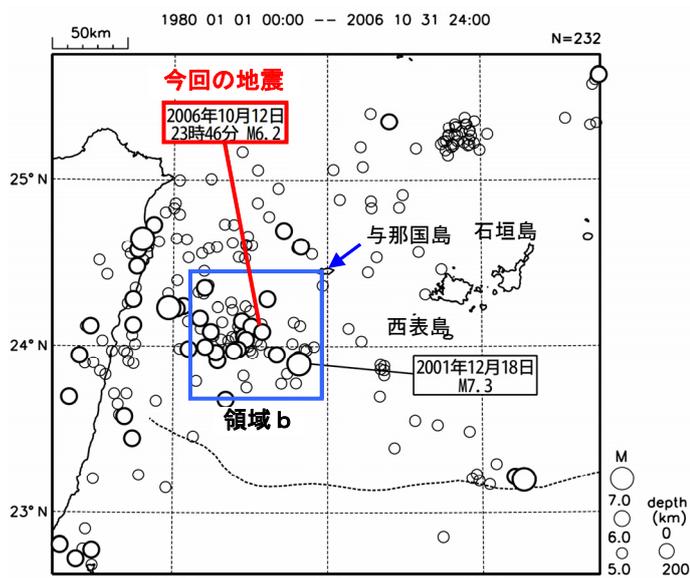


今回の地震の CMT 解 (ハーバード大学による)



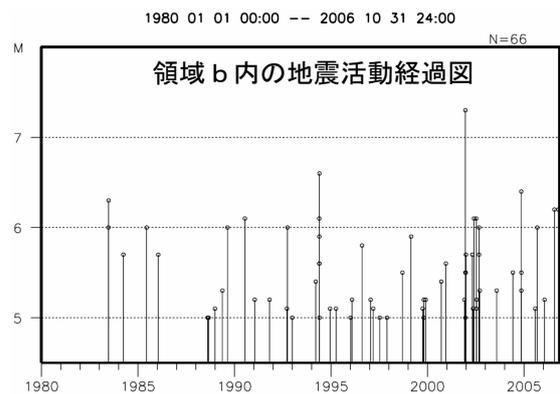
2006年10月12日23時46分に与那国島近海で M6.2 (最大震度 2) の地震が発生した。今回の地震の震央付近では M6.0 程度の地震が時々発生している。最近では 2006年7月28日に M 6.2 の地震が発生している (A)

**B** 震央分布図 (1980年1月以降、 $M \geq 5.0$ )



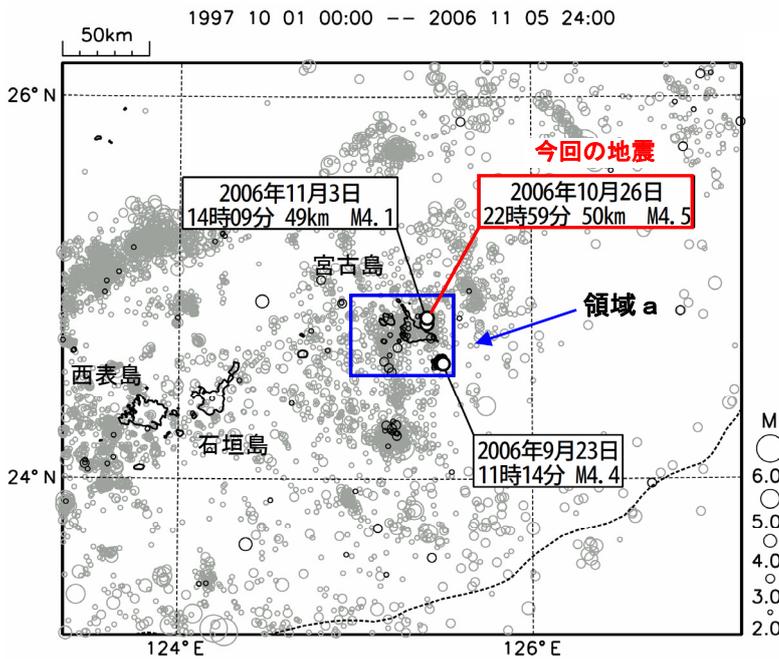
M6.0 以上を濃くプロットしている。

1980年以降の活動をみると、今回の地震の付近では、M6以上の地震が時々発生している。最大の地震は 2001年12月18日に発生した M7.3 の地震である。(B)

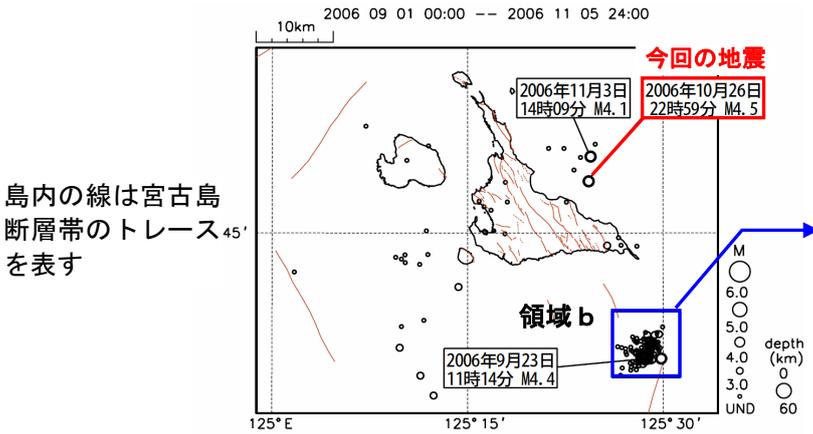


# 宮古島近海の地震活動

**A** 震央分布図 (1997年10月以降、 $M \geq 2.0$ )

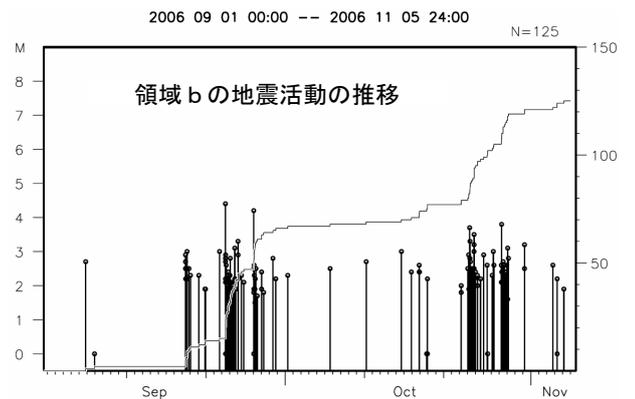
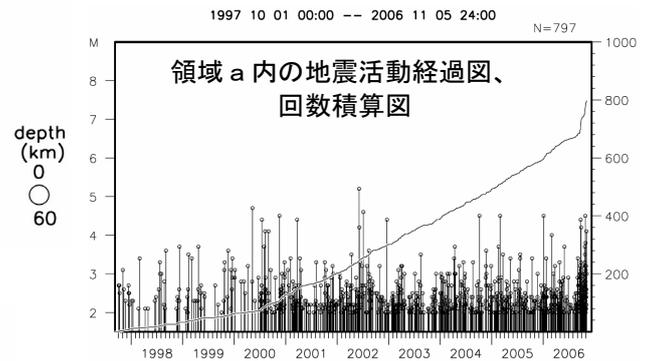


領域 a の拡大図 (2006年9月以降、M すべて)

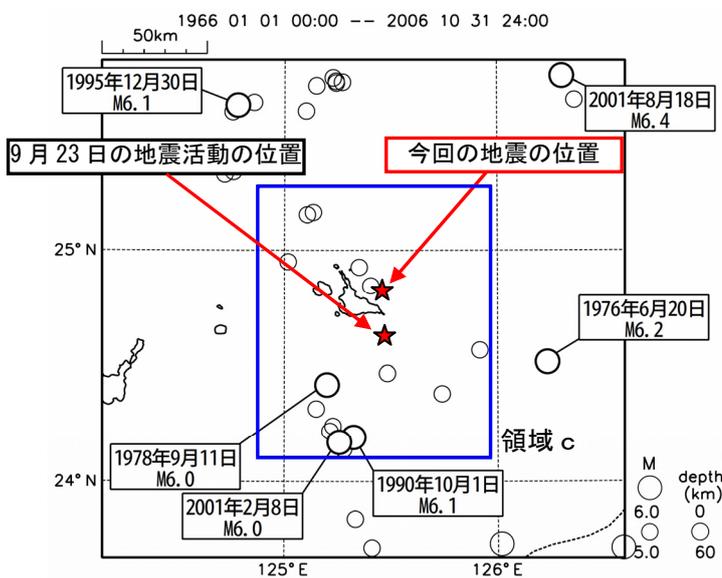


2006年9月18日頃から宮古島の南東海域で始まった地震活動は、10月に入って低調であったが、下旬に一時的に活発化した。最大は9月23日11時14分に発生したM4.4の地震(最大震度3)であり、その後M4.0を越える地震は発生していない。

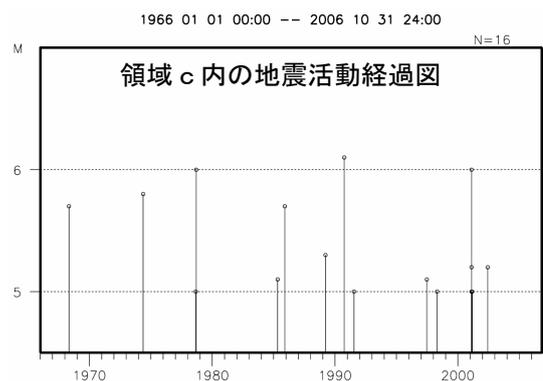
また、2006年10月26日22時59分に宮古島の北東沖〔宮古島近海〕の深さ50kmでM4.5(最大震度3)の地震が発生した。11月3日14時09分にも、ほぼ同じ場所でM4.1(最大震度1)の地震が発生している。(A)



**B** 震央分布図 (1966年以降、 $M \geq 5.0$ )



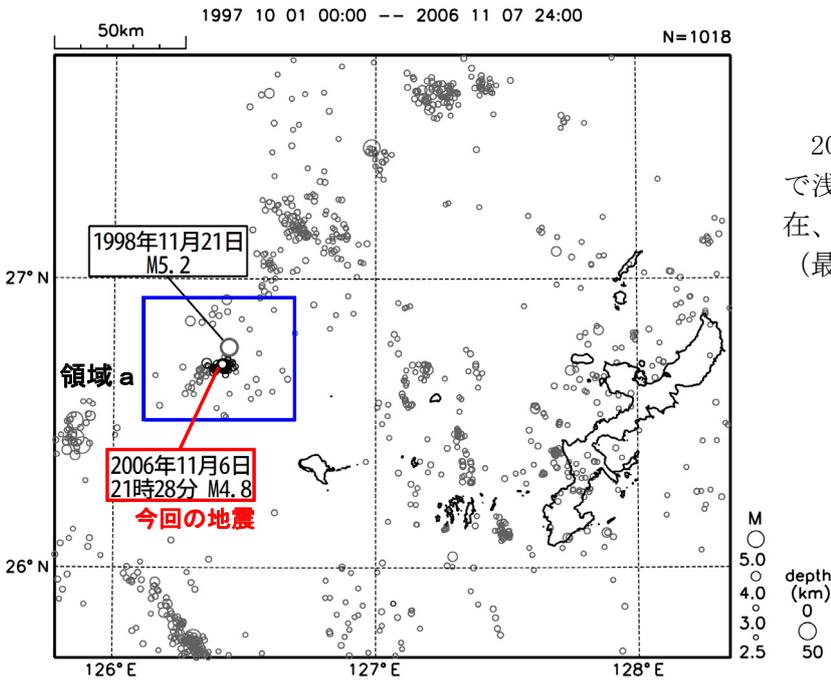
過去40年間程度の比較的浅い地震の活動状況を見ると、宮古島周辺海域で、M6.0以上の地震が時々発生しているが、宮古島に極近いところでは、M6.0以上の地震は発生していない。(B)



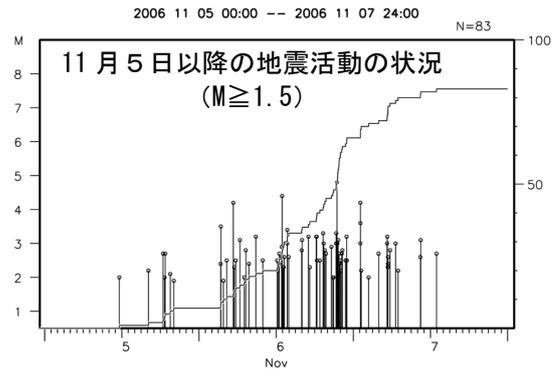
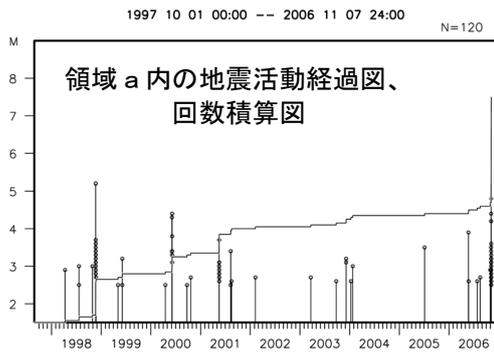
# 沖縄本島北西沖の地震活動

**A**

震央分布図（1997年10月以降、 $M \geq 2.5$ ）

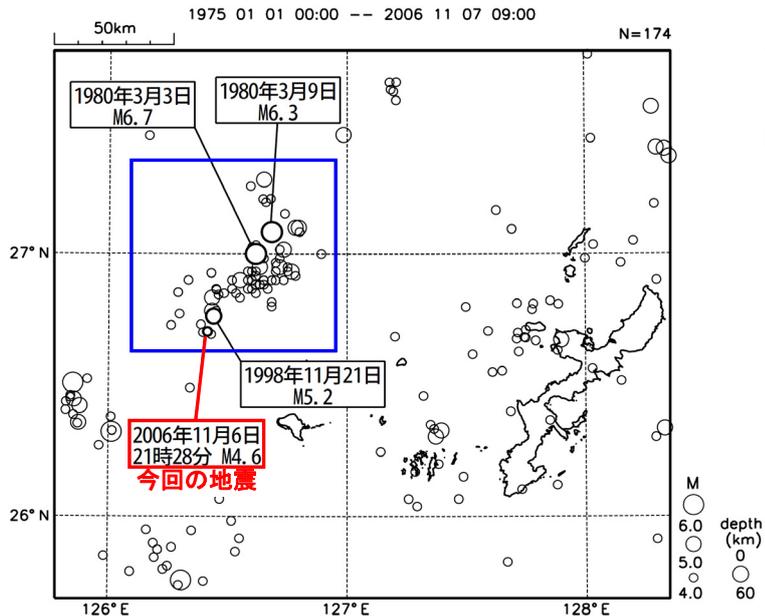


2006年11月5日から沖縄本島北西沖で浅い地震活動が始まった。7日24時現在、最大の地震は6日21時28分のM4.8（最大震度2）の地震である。（**A**）

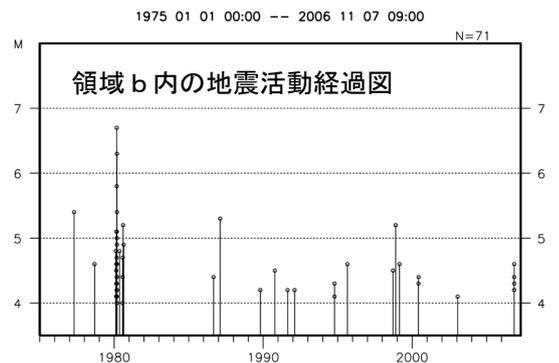


**B**

震央分布図（1975年以降、 $M \geq 4.0$ ）



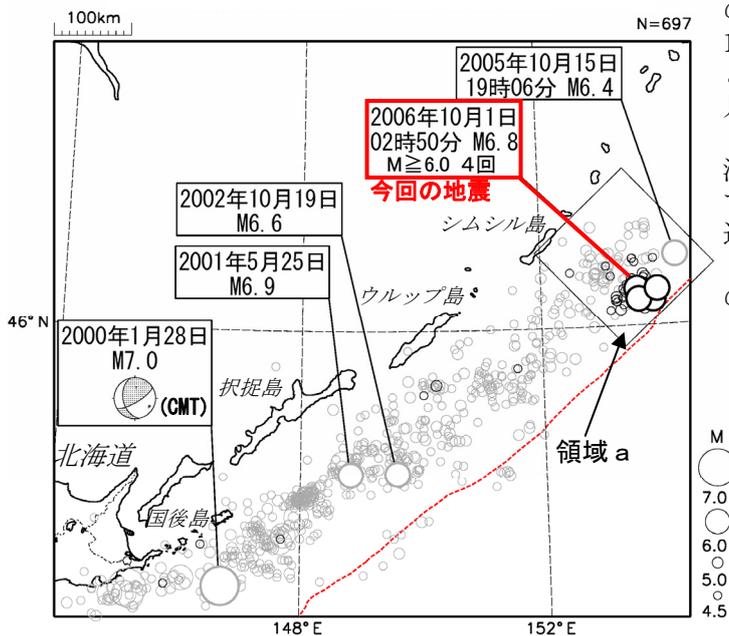
1975年以降の活動をみると、今回の地震の震央の北東側では、1980年3月にM6.7（3月3日）、M6.3（3月9日）など、まとまった活動があった。その後は、M4~5クラスの地震が発生している（**B**）



# 10月1日 千島列島東方の地震

**A**

震央分布図  
(1997年10月1日～2006年11月1日、 $M \geq 4.5$ 、深さ100km以浅)

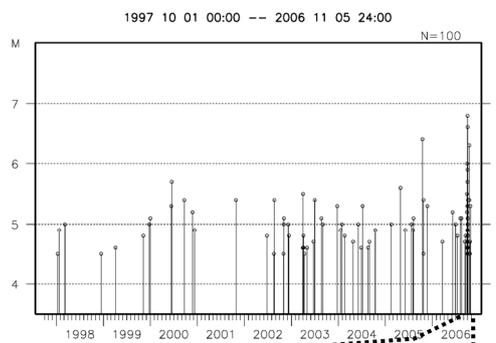


2006年10月1日02時50分に千島列島東方でM6.8(震度1以上の観測なし)の地震が発生した。地震活動は、M6以上の地震が今回の地震を含め4回発生(9月28日にM6.0、10月1日にM6.6、10月13日にM6.3)するなど活発であったが、その後活動は減衰し、10月24日以降は地震は観測されていない。

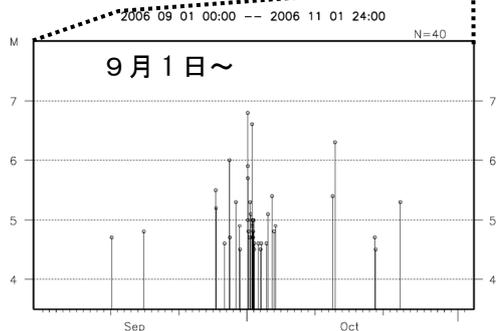
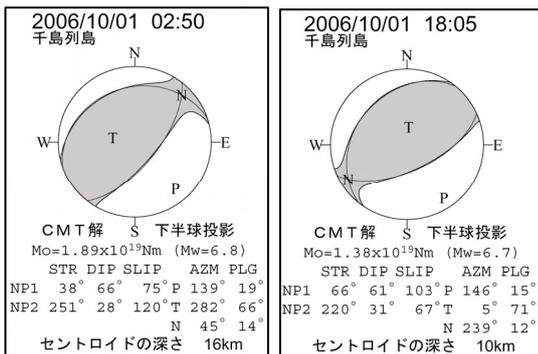
この地震の発震機構解(CMT解)は、太平洋プレートの沈み込む方向に圧力軸を持つ型で、北米プレートと太平洋プレートの境界付近で発生した地震と考えられる。

この付近では、2005年10月15日にM6.4の地震が発生している。(A)

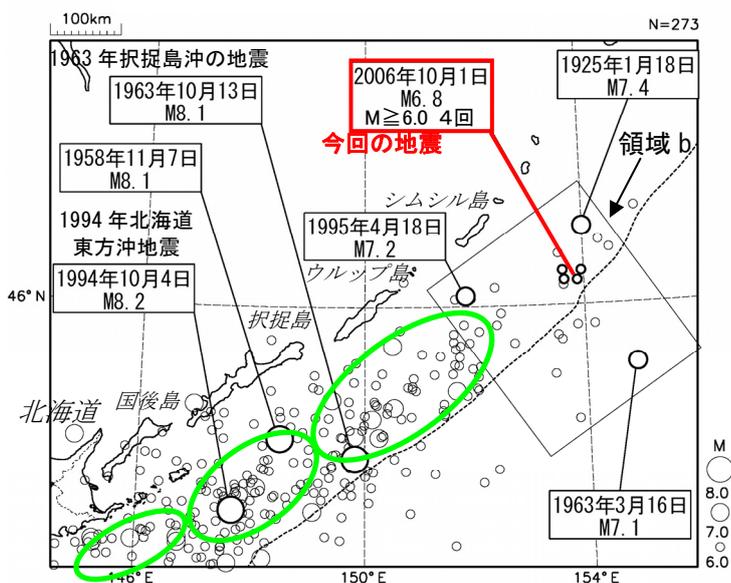
領域 a 内の地震活動経過図



今回の地震の  
発震機構解  
(CMT解)

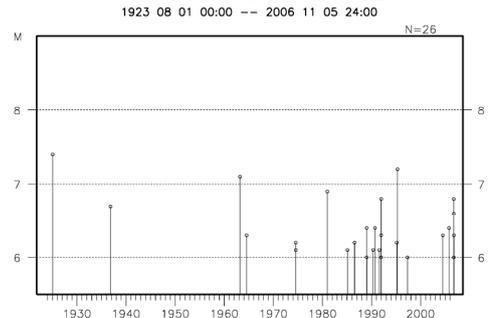


**B** (1923年8月1日～、 $M \geq 6.0$ 、深さ200km以浅)



1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の周辺(領域b)では、M7を超える地震が3回発生している。(B)

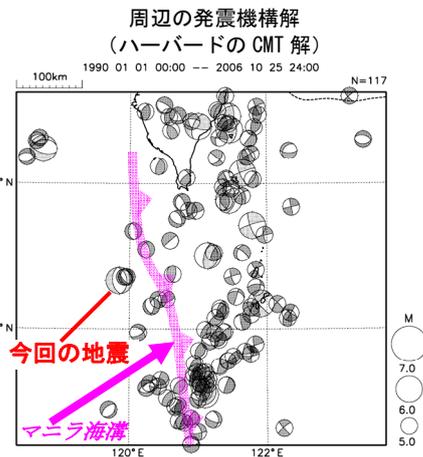
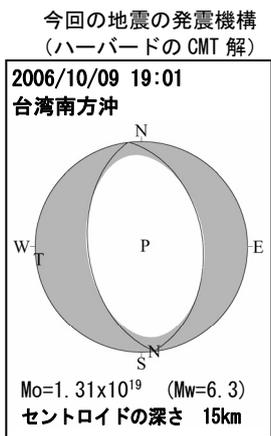
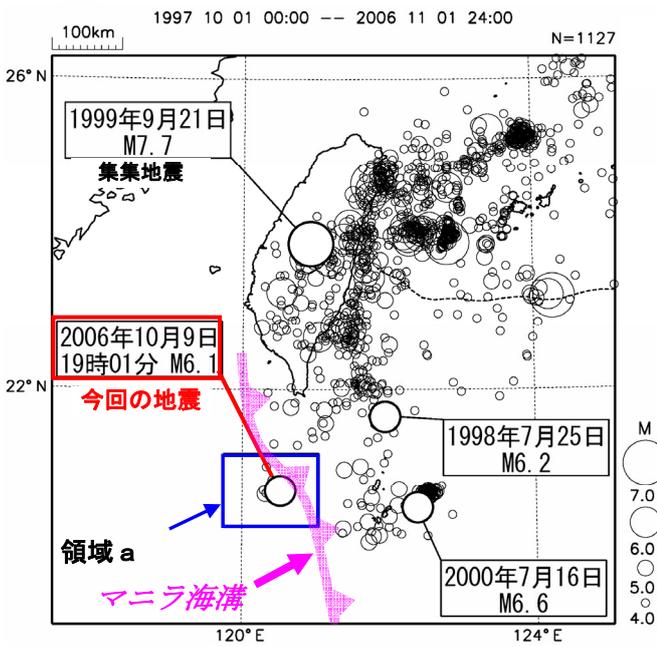
領域 b 内の地震活動経過図  
(1923年8月以降、 $M \geq 6.0$ )



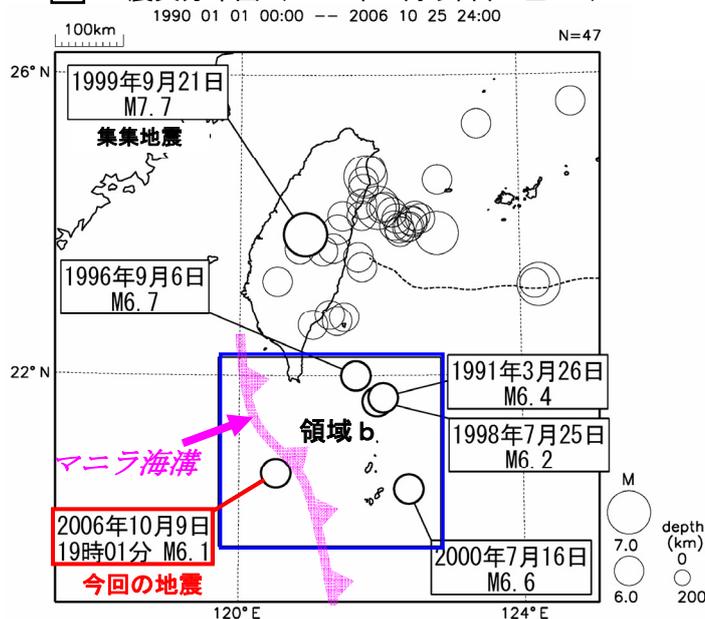
楕円の領域は、地震調査委員会による千島海溝沿いの想定震源域のたまかな位置を示す(左下から根室沖、色丹島沖、択捉島沖)

# 10月9日 台湾南方沖の地震

**A** 震央分布図 (1997年10月以降、M $\geq$ 4.0)

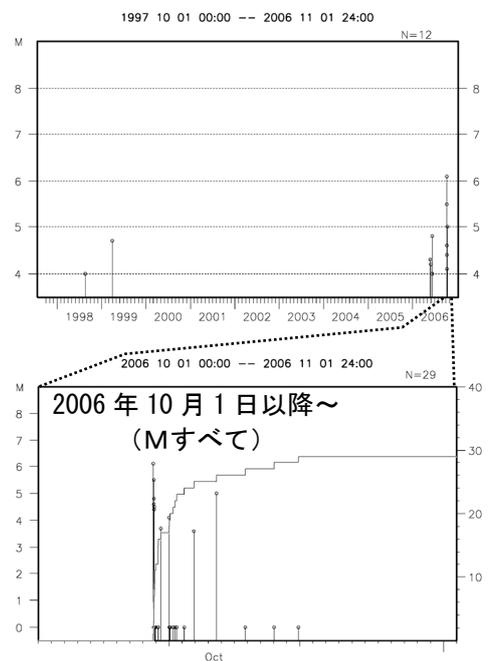


**B** 震央分布図 (1990年1月以降、M $\geq$ 6.0)



2006年10月9日19時01分に台湾南方沖でM6.1(震度1以上の観測なし)の地震が発生した。発震機構(ハーバードによるCMT解)は東西方向に張力軸を持つ正断層型で、この付近でよく見られる型であった。この付近はユーラシアプレートがマニラ海溝からフィリピン海プレートの下に沈み込んでいるところで、今回の地震はユーラシアプレートの内部で発生した地震と考えられる。余震は11月1日までに28回観測され、最大は10月9日20時08分のM5.5であった。(A)

領域 a 内の地震活動経過図



1990年以降の活動をみると、今回の地震の周辺では、過去にM6を超える地震が今回を含め4回発生しているものの、M7を超えるものは発生していない。最大は2000年7月16日のM6.6の地震(沖縄県で震度1)である。(B)

領域 b 内の地震活動経過図

